柏原市埋蔵文化財発掘調査概報

１９９３年度

１９９４年3月

柏原市教育委員会

はしがき

本年度は、大和川の浄化施設建設工事に伴って、あの有名な船橋遺跡において、初めて大和川河床の本格的な発掘調査が実施され、予想以上の成果がありました。また、同じ船橋遺跡から絵画を線刻した縄文土器が発見され、平野遺跡からは戦士の線刻画と動物の浮き彫りのみられる弥生土器が発見されるなど、本市の埋蔵文化財が再三にわたってマスコミに取り上げられた一年でした。しかし、このような華やかな報道の陰で、連日にわたる地道な発掘調査を実施していることを忘れていただきたくありません。

バブル経済がはじけて、世の中は好景気から一転不況へと転がり落ちました。このような状況のもと、当然開発や住宅建設の件数が減少するものと考えておりましたが、届出件数、発掘調査件数ともにほぼ例年並みであり、不況による影響はほとんどみられませんでした。そのため、ほぼ例年どおりの発掘調査が実施され、例年どおりに遺跡が破壊され、消滅していったことになります。

このような調査の中から、本書では本年度に国庫補助事業として実施した主要な調査についての概要を報告しております。今後とも、みなさんのより一層のご理解とご協力を賜りたく、よろしくお願いいたします。

平成６年３月

柏原市教育委員会
教育長　庖刀和秀

例　　言

1．本書は柏原市教育委員会が平成５年度に国庫補助事業（総額3,000,000円、国補助率50％、府補助率25％、市負担率25％）として計画し、社会教育課文化係が実施した柏原市内遺跡群緊急発掘調査概要報告書である。

2．調査は柏原市教育委員会社会教育課　北野　重、安村俊史、石田成年を担当者とし、平成５年４月１日に着手し、平成６年３月31日に終了した。

3．本書には、平成５年１月１日から同年12月31日までに着手した土木工事に伴う事前発掘調査のうち６件の概要とその他の調査の一覧を掲載した。なお、この期間内に文化財保護法第57条の２および３に基づく届出・通知がなされたものは220件、その中で発掘調査を実施したものは65件、国庫補助事業として実施したものは48件である。

4．本書の執筆、および編集は安村が担当した。

5．本書図中の方位は磁北、標高はT.P.で表示した。

6．調査・整理の参加者は下記のとおりである。

米田　博	吉田　宏	山田寛顕	寺川　款	生駒美洋子	奥野　清
谷口鉄治	分才隆司	酒井英利香	西島伸彦	平林　格	松尾洋平
山口　剛	阪口文子	槇原美智子	尾野知永子	有江マスミ	乃一敏恵
村口ゆき子					

目　　次

はしがき
例　　言
目　　次
1993年度柏原市内遺跡群発掘調査一覧
第１章　平野遺跡……1
　　93－２次調査……2
第２章　大県遺跡……4
　　93－４次調査……5
第３章　原山遺跡……8
　　93－３次調査……9
　　93－５次調査……12
第４章　原山廃寺……14
　　93－２次調査……14
第５章　田辺遺跡……22
　　93－３次調査……23
調査対象地位置図
図版

挿　図　目　次

図－１　平野遺跡　調査対象地位置図……1
図－２　平野93－２次調査　調査区位置図……2
図－３　平野93－２次調査　土層模式図……2
図－４　平野93－２次調査　出土遺物……3
図－５　大県遺跡　調査対象地位置図……4
図－６　大県93－４次調査　調査区位置図……5
図－７　大県93－４次調査　土層図……6
図－８　大県93－４次調査　出土遺物……7
図－９　原山遺跡・原山廃寺　調査対象地位置図……8
図－10　原山93－３次調査　調査区位置図……9

図－11　原山93－３次調査　土層図……10
図－12　原山93－３次調査　出土遺物……11
図－13　原山93－５次調査　調査区位置図……12
図－14　原山93－５次調査　土層図……12
図－15　原山93－５次調査　出土遺物……13
図－16　原山廃寺93－２次調査　調査区位置図……14
図－17　原山廃寺93－２次調査　平面図・土層図……15
図－18　原山廃寺93－２次調査　土層図……16
図－19　原山廃寺93－２次調査　出土遺物……17
図－20　原山廃寺93－２次調査　出土遺物……18
図－21　原山廃寺　立会調査等出土遺物……20
図－22　原山廃寺　立会調査等出土遺物……21
図－23　田辺遺跡　調査対象地位置図……22
図－24　田辺93－３次調査　調査区位置図……23
図－25　田辺93－３次調査　土層模式図……23
図－26　田辺93－３次調査　出土遺物……24
図－27　本郷遺跡　調査対象地位置図……25
図－28　船橋遺跡　調査対象地位置図……26
図－29　大県南・太平寺・安堂遺跡　調査対象地位置図……27
図－30　平尾山古墳群　調査対象地位置図……28
図－31　玉手山遺跡　調査対象地位置図……29
図－32　玉手山遺跡　調査対象地位置図……30
図－33　田辺遺跡・松岳山古墳群　調査対象地位置図……31
図－34　田辺古墳群・河内国分尼寺跡　調査対象地位置図……31

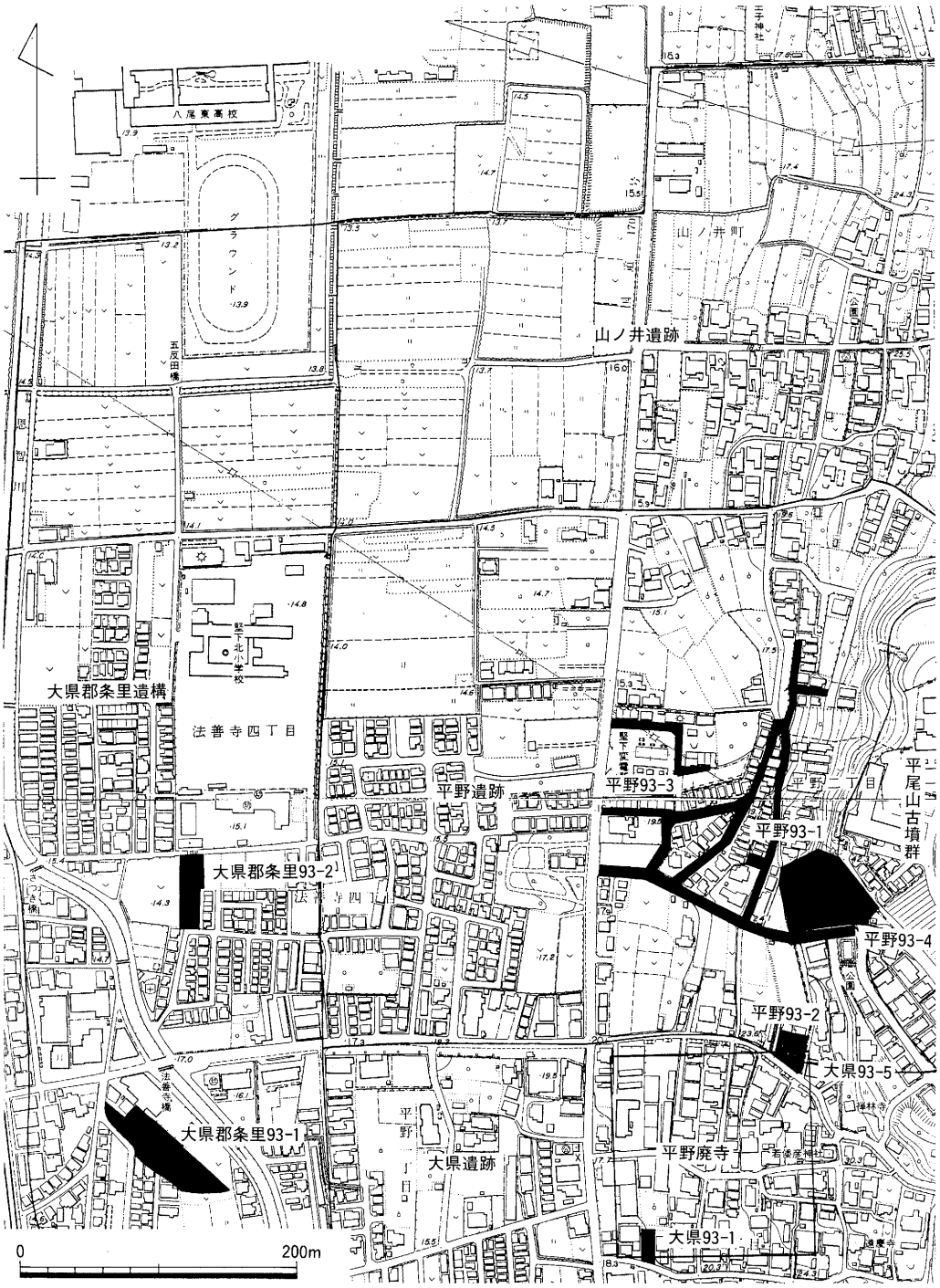
1993年度　柏原市内遺跡群発掘調査一覧

遺跡名	所在地	面積㎡	申請者	用途	担当	調査期日	備考
本郷93－1	本郷3丁目770-1	1315.40	辻野　清	共同住宅建設	石田	4.15	3×3mを2箇所調査。 地表下1.7mで古墳～奈良時代の包含層
本郷93－2	本郷4丁目2－6	661.06	建設省大和川工事事務所 所長　古賀省三	寮建設	石田	9.8	3×2×4mを調査。 地表下1.6mで中近世の遺構
本郷93－3	本郷5丁目		柏原市長山西敏一	下水道	北野	12.18～	12月末現在調査中。
船橋93－1	古町地内	3,500	建設省大和川工事事務所 所長　古賀省三	浄化施設建設	安村 石田	3.31～5.31	1.13に38㎡を試掘。 縄文～近世の遺物・遺構多数。
船橋93－2	大正2丁目427－5の一部	1109.92	三吉商事㈱ ㈹田中良和	分譲住宅建設	石田	7.28	2×4×1.7mを調査。 遺物・遺構なし。
船橋93－3	大正3丁目343－23・27	66.80	木邨義信	個人住宅建設	安村	11.16	1.5×2×1.2mを調査。 遺物・遺構なし。
大県郡条里93-1	法善寺2丁目170－1・2	1999.38	大発産業㈱ ㈹　神野正一	共同住宅建設	石田	4.19	3×3×4mを調査。 地表下3.2mで奈良時代の包含層。
大県郡条里93-2	法善寺4丁目222-1他	905.51	森田幸一	共同住宅建設	石田	10.14	2×2m、2×3mを2箇所調査。 遺物・遺構なし。
平野93－1	平野2丁目490－5	130.56	高村　実	個人住宅建設	安村	1.28	2×2×1.2mを調査。 遺物・遺構なし。
平野93－2	平野2丁目390－4	639.76	本田　勲	個人住宅建設	安村	4.7	本書掲載
平野93－3	平野2丁目14,17,18,山の井2先		柏原市長　山西敏一	下水道	北野	9.24～11.30	工事に際して土層観察、遺物採集。 弥生～近世の遺物出土。
平野93－4	平野2丁目458－1	2711.10	安田建設工業㈱ ㈹安田俊雄	共同住宅建設	石田	9.27～10.12	197㎡を調査。 中世のピット、奈良時代～中世の遺物出土。
大県93－1	平野2丁目140－2	264.87	田中幸一	個人住宅建設	北野	4.16	1.2×2.0×1.2mを調査。 地表下0.6mで弥生～古墳時代の包含層。
大県93－2	平野2丁目150－1・2	485.02	吉村和久	共同住宅建設	石田	7.8	2×1×1.8mを調査。 遺物・遺構なし。
大県93－3	平野1丁目32－15	150.15	竹中靖人	個人住宅建設	安村	8.3	1.5×1.5×1mを調査。 遺物・遺構なし。
大県93－4	大県4丁目237－1・2	703.40	大野　実	個人住宅建設	安村	10.6	本書掲載
大県93－5	平野2丁目390－2	129.42	吉岡俊光	個人住宅建設	安村	11.15	1.5×1.5×0.9mを調査。 遺物・遺構なし。
大県南93-1	太平寺2丁目548－8	946.68	小西光蔵	共同住宅建設	石田	1.20	1.5×4×2.2mを調査。 遺物・遺構なし。
大県南93-2	大県4丁目369	2360.19	田中豊作	共同住宅建設	石田	2.16	2.5×2.5mを2箇所調査。 地表下50㎝で古墳～中世の遺物・遺構。
大県南93-3	大県3丁目257－1	739.35	山下義夫	共同住宅建設	石田	11.10	2箇所、計7㎡を調査。 奈良時代の遺物が出土。
大県南93-4	大県4丁目359－1	1690	山下福松	共同住宅建設	石田	11.12	2箇所、計21㎡を調査。 地表下1.1mで古墳～奈良時代の包含層。
大県南93-5	大県4丁目360、361、363-1	2996.85	山谷安賢	共同住宅建設	石田	12.21	2箇所、計15㎡を調査。 地表下0.8mで古墳～奈良時代の包含層。
安堂92－3	安堂町914、974-2	717.09	山下真弓	共同住宅建設	石田	7.5～7.9	1992. 8. 5に4㎡を試掘。 87.5㎡を調査。古墳～奈良時代の遺物・遺構。
安堂93－1	安堂町	17.66	大阪府東部流域下水道事務所 所長　田河勝一	下水道	北野	8.25～8.30	約18㎡調査。 古墳～奈良時代の遺物。
安堂93－2	安堂町918－5	476.27	阪和住研㈱ ㈹北口八郎	分譲住宅建設	石田	9.16	1.5×1.5×1.5mを調査。 遺物・遺構なし。
安堂93－3	安堂町972－1	744	山本庄治	共同住宅建設	石田	11.1	3×3×2.2mを調査。 地表下1.5mで奈良時代の包含層。
大県南廃寺93-1	大県4丁目	560	大阪府八尾土木事務所 所長　表谷賢司	砂防流路工、 道路工	安村	6.24	5×6×4mを調査。 遺物・遺構なし。
太平寺廃寺92-1	太平寺2丁目367-3、368-1・2	1755.47	中辻信太郎	共同住宅建設	石田	6.23～7.5	1992. 12. 3に12.5㎡を試掘。 55㎡を調査し、古墳～奈良時代の遺物・遺構。
平尾山古墳群93-1	雁多尾畑5622他5筆	2195	古河組 ㈹古河兼年	農地造成	石田	1.6～1.13	40㎡を調査。 7世紀の横穴式石室墳。
平尾山古墳群93-2	青谷1677他	9890	古河組 ㈹古河兼年	農地改良	石田	3.1～3.12	横穴式石室墳2基を調査。
平尾山古墳群93-3	雁多尾畑1709-1地内外	2200	大阪府八尾土木事務所 所長　表谷賢司	道路拡幅	北野	3.16	1.5×6.2mを3箇所調査。 遺物・遺構なし。
平尾山古墳群93-4	青谷295－1	445.23	澤田美砂	個人住宅建設	北野	4.6	1.5×2.0×0.6mを調査。 遺物・遺構なし。

遺跡名	所在地	面積㎡	申請者	用途	担当	調査期日	備考
平尾山古墳群93-5	雁多尾畑3718他31筆	16351	日比谷建設㈱ ㈹川原昭二郎	農地改良	石田	9.20	分布調査。 古墳数基を新発見。
平尾山古墳群93-6	青谷50他	1428.10	中村晃義	老人ホーム建設	石田	12.14～12.15	3箇所、計15.6㎡を調査。 遺物・遺構なし。
玉手山93-1	旭ケ丘1丁目464-12の一部	641.88	本谷隆義	個人住宅建設	安村	2.4～2.5	1×10×1.2mを調査。 遺物・遺構なし。
玉手山93-2	旭ケ丘2丁目371－3	171.07	西谷和博	個人住宅建設	安村	3.12	2×2×0.3mを調査。 遺物・遺構なし。
玉手山93-3	玉手町	99.9	㈱ツーカーホン関西 ㈹渋谷裕弘	鉄塔建設	北野	5.26	4.26に2.5mを試掘。 35㎡を調査し、弥生時代の遺物・遺構。
玉手山93-4	円明町400－1	245.47	松中延行	個人住宅建設	北野	5.13	1×2×1mを調査。 遺物・遺構なし。
玉手山93-5	片山町114－1他	2102.53	小中俊	駐車場造成	石田	10.27～10.29	3箇所、計17.3㎡を調査。 古墳・奈良時代の遺物。
玉手山93-6	円明町4958、4959-1、4960	1364	宮本広作	倉庫建設	石田	11.8	1×3mを2箇所調査。 遺物・遺構なし。
玉手山93-7	旭ケ丘1丁目446-43	68.72	副田美臣	個人住宅建設	安村	12.24	1.5×1.5×0.5mを調査。 遺物・遺構なし。
原山93－1	旭ケ丘3丁目1078-3	249.11	山田義昭	個人住宅建設	安村	3.23	1.8×2.5×1mを調査。 古墳～奈良時代の遺物。
原山93－2	旭ケ丘3丁目4676、4744他	450	学校法人 玉手山学園 理事長 江端文行	校舎増築	石田	4.6	3×3×2mを調査。 遺物・遺構なし。
原山93－3	旭ケ丘3丁目1078－2	255.58	山田武	個人住宅建設	安村	9.13～9.17	本書掲載。
原山93－4	旭ケ丘3丁目4778-1他	37682.27	学校法人 玉手山学園 理事長 江端文行	セミナーハウス建設	安村	10.8	2箇所、計4.5㎡を調査。 遺物・遺構なし。
原山93－5	旭ケ丘3丁目4839－4	165.28	宇野八穂	個人住宅建設	安村	11.30	本書掲載。
原山廃寺93-1	旭ケ丘3丁目1075-2.3、4827-1.2、4828-1.2	999.61	戸島晴子	宅地造成	安村	2.18～2.24	38㎡を調査。 弥生～奈良時代の遺物・遺構。
原山廃寺93-2	旭ケ丘3丁目1075-16.15	228.74	隅田萬代	個人住宅宅地造成	安村	10.12～10.25	本書掲載。
田辺93－1	田辺2丁目1291、1300-1、1314-1、1316-2	2389.03	三浦義美	共同住宅建設	安村	1.8	2×3mを3箇所調査。 遺物・遺構なし。
田辺93－2	国分本町5丁目1490-2、1493-2.3.4	320.09	裏野雅一	個人住宅建設	安村	3.17	2×2×0.5mを調査。 遺物・遺構なし。
田辺93－3	田辺1丁目8－3	354.06	垣本美代	個人住宅建設	安村	4.5	本書掲載。
田辺93－4	田辺2丁目1231－51	144.36	大嶋耕作	個人住宅建設	安村	6.1	1.5×2×0.4mを調査。 遺物・遺構なし。
田辺93－5	田辺2丁目1272－23	56.66	浪建住販㈲ ㈹岡田忠安	個人住宅建設	安村	6.7	1.5×2×0.3mを調査。 時期不明の遺構。
田辺93－6	田辺1丁目1136－5	132.62	辻隆司	共同住宅建設	石田	6.22	1.5×1.5×1.5mを調査。 遺物・遺構なし。
田辺93－7	田辺2丁目2120-1.2の一部	499.90	寺嶋尚慶	共同住宅建設	石田	10.15	2箇所、計10㎡を調査。 遺物・遺構なし。
田辺93－8	田辺1丁目2028-58の一部	78.61	㈱北栄 ㈹北池利雄	個人住宅建設	安村	10.18	0.5×0.5×0.5mを調査。 遺物・遺構なし。
田辺93－9	田辺1丁目2028－58の一部	75.95	㈱北栄 ㈹北池利雄	個人住宅建設	安村	10.18	1.5×1.5×0.15mを調査。 遺物・遺構なし。
田辺93－10	田辺2丁目2060－5	88.95	㈱ビーバーリース ㈹川野泰子	個人住宅建設	安村	10.22	1×1×0.6mを調査。 遺物・遺構なし。
田辺93－11	国分本町7丁目1－20	14605	柏原市長 山西敏一	学校トイレ建設	北野	10.26	1×2×0.2mを調査。 遺物・遺構なし。
田辺93－12	田辺2丁目1270－14	62.98	内藤英康	個人住宅建設	安村	11.29	1.5×1.5×0.6mを調査。 遺物・遺構なし。
田辺93－13	田辺2丁目2098-3、2098-5の一部	207.80	平川住宅㈱ ㈹平川年一	分譲住宅建設	石田	12.22	1×1mを2箇所調査。 古墳～奈良時代の遺物。
田辺93－14	国分本町6丁目710	13470	柏原市長 山西敏一	鳥小屋増築	北野	2.26	2.5×6.5mを調査。 遺物・遺構なし。
田辺古墳群93-1	国分東条町2421-3他9筆	4230.14	八幸産業㈱ ㈹東部正己	宅地造成	石田	3.31	1×5mを2箇所調査。 遺物・遺構なし。
松岳山古墳群93-1	国分市場1丁目1646、1647	422.47	山本克之	個人住宅建設	安村	6.3	1.5×2×0.05mを調査。 遺物・遺構なし。
国分尼寺跡93-1	国分東条町2601-1の一部	280.13	森岡守	個人住宅建設	北野	4.27	1.4×1.9×0.6mを調査。 奈良時代の遺物。

（但し1993年1月1日から12月31日に着手したもの）

第1章　平野（ひらの）遺跡



図－1　調査対象地位置図

93－2次調査

・調査対象地　　柏原市平野2丁目390－4

・調査期間　　1993年4月7日

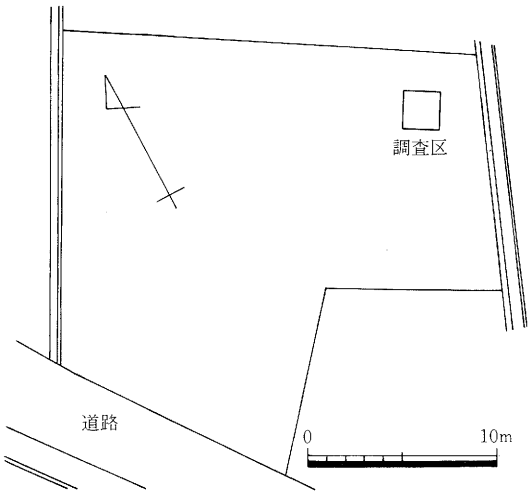
・調査面積　　4㎡／639.76㎡

・調査担当者　　安村俊史

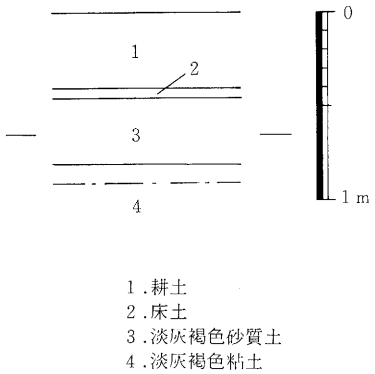
調査地は平野遺跡と大県遺跡の境界に位置し、平野廃寺の北東部にあたる。地形は、緩やかに西側へ傾斜する生駒山地西麓の扇状地を呈する。これまでの周辺の調査では、縄文時代から中世にかけての遺物が出土している。

調査区は、調査対象地の北東部隅近くに2ｍ×2ｍの規模で設定した。これは、これまでの周辺の調査成果から、遺物包含層および地山がかなり深いと考えられたため、最も遺物包含層が浅いと推定される山側、すなわち東側に調査区を設定したものである。

土層は、過去の耕作に伴う耕土が40㎝の厚さを示し、その下層に床土、淡灰褐色砂質土がみられる。建築予定建物の基礎深度との関係から、調査区全体を60㎝の深さまで掘り下げた後、東壁に沿って、幅40㎝のみ更に30㎝を掘り下げた。その結果、淡灰褐色砂質土は地表下80㎝まで続いており、その下層に淡灰褐色粘土が存在することを確認した。淡灰褐色砂質土には少量の遺物が含まれているのみであり、出土遺物の大半は、淡灰褐色砂質土と淡灰褐色粘土の境界から出土している。遺物は奈良時代の須恵器・土師器が出土しているが、いずれも小片である。その中に1点のみ弥生時代中期の壺口縁が混じっていた。以上の事実から、淡灰褐色粘土上面が奈良時代の遺構面になるものと考えられる。なお、淡灰褐色粘土からは、遺物の出土を見なかった。



図－2　調査区位置図



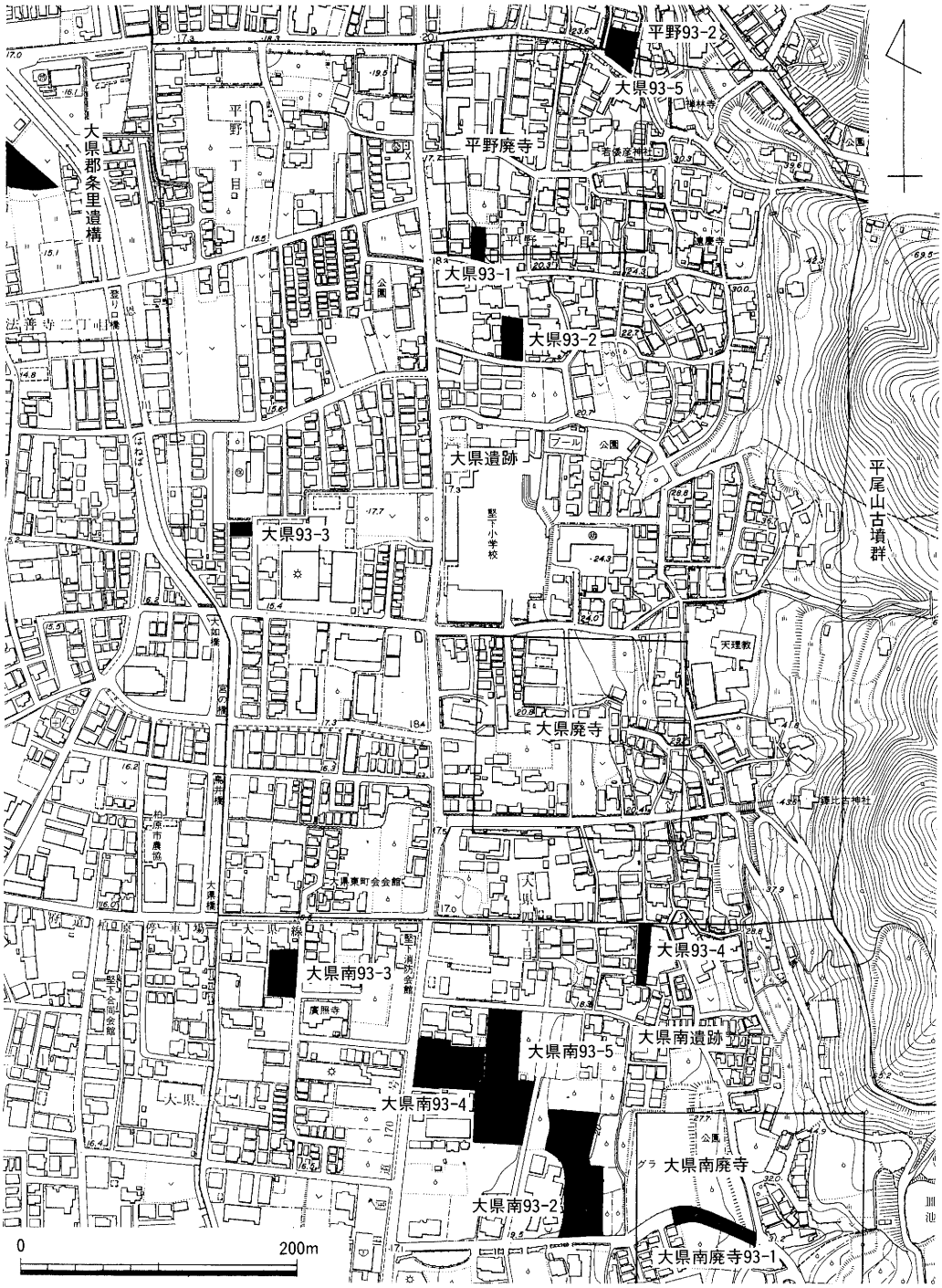
図－3　土層模式図

図－4　出土遺物

図化できた遺物２点は、いずれも淡灰褐色粘土上面から出土した土師器の杯である。器高が低く、口縁端部が内側へ巻き込むように肥厚する。２には、低い高台を伴う。いずれも内面に放射暗文がみられるが、その密度は１では粗く、２は密になる。暗橙色を呈し、復元口径は１が18.5㎝、２が18.8㎝となる。いずれも奈良時代の遺物である。

今回の調査結果から、調査地周辺には奈良時代の遺構面が残っていると考えられる。更にその下層には、古墳時代、弥生時代、縄文時代の遺物・遺構が存在すると推定され、注目される。今回の建築物の基礎深度は淡灰褐色砂質土上面に達するのみであるため、これ以上の範囲の拡張、および掘り下げは行っていない。周辺は既に宅地化され、今後大規模な調査を実施できる見込みは少ないが、層位的に遺物・遺構が残っているので、注意していきたいと考えている。

第2章　大県（おおがた）遺跡



図－5　調査対象地位置図

93－4次調査

・調査対象地　　柏原市大県4丁目237－1・2

・調査期間　　1993年10月6日

・調査面積　　2.3㎡／703.40㎡

・調査担当者　　安村俊史

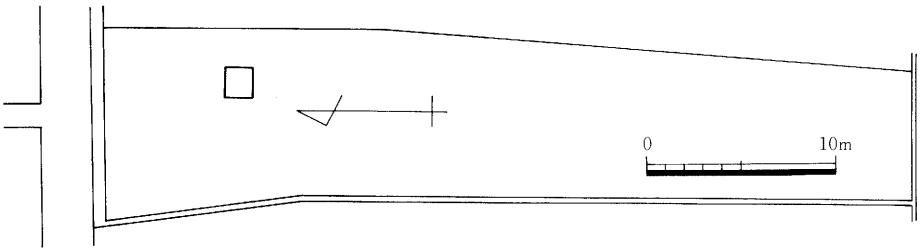
本調査地は、大県遺跡と大県南遺跡との境界上に位置し、厳密には大県南遺跡の範囲内になるのであるが、事務手続上で大県遺跡として処理しているため、本報告でも大県遺跡として扱うことにする。

調査地周辺は、西側へ下る扇状地の奥部に位置し、標高20m前後を測る。調査対象地は南北に細長い形状を示しており、その北東部に1.5m四方の調査区を設定して調査を実施した。地表下20～60㎝に黒褐色粘質土がみられ、少量の遺物を含んでいる。おそらく中世の遺物包含層であろう。その下層にみられる褐色砂礫土は、非常に堅く締まっている。その状況から、鉄分の沈殿によって締まったものと思われる。これを裏付けるように、須恵器・土師器に混じって多数の鉄滓が出土している。また、馬と思われる動物の骨・歯も出土している。更に下層には、古墳時代の遺物包含層とみられる暗黒灰色粘土が地表下130㎝以下まで続いている。調査を実施したのは、地表下120～130㎝までである。各土層は東壁においては水平層であり、南壁においては西側へ下る地形に即した傾斜を示している。

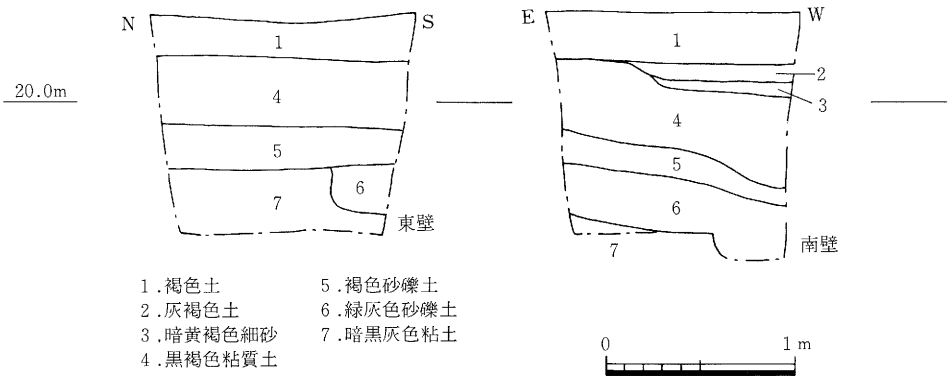
調査地南端で、暗黒灰色粘土層に掘られた土坑状の遺構が認められる。埋土は緑灰色砂礫土であり、須恵器・土師器・獣骨・鉄滓などが出土している。周囲の状況から考えると、鍛冶に関連する遺構の可能性も考えられる。

4・15～18は黒褐色粘質土出土。3・5・8・13・19・21は褐色砂礫土出土。1・2・6・7・9～12・14・20は緑灰色砂礫土出土。このほかに鉄滓など、コンテナ4箱分の遺物が出土している。

1～13は須恵器。1～7は杯蓋。1・2は天井と口縁の境に弱い稜がみられる。6・7は稜はみられず、いずれも外面天井部にヘラ記号がみられる。6は2本の直線、7は3本の直線か



図－6　調査区位置図



図－7　土層図

らなり、7の天井部中心（図中網目部分）には、赤色顔料が塗布されている。3・5はあまいかえりを有する杯蓋。5のほうが口径が大きく、器高が低い。4のような扁平なつまみを伴うものであろう。

8～10は立ち上がりを有する杯身。いずれも内傾する短い立ち上がりである。

11は瑤の口縁部であろう。外面に明瞭な稜線がみられる。

12・13は壺・甕の口縁部。12の口縁は強く外反し、端部外面が面をなす。13の口縁は緩やかに外反し、端部で断面方形状に厚く肥厚する。

14～19は土師器。14は小形の椀。外面はタテハケから体部下半はヨコ方向のヘラケズリ、内面は板ナデからナデ。15は浅い杯。外面指頭調整。内面には斜方向の暗文がわずかに残る。16も杯。外面指頭調整。17は内面に放射状の暗文を施す杯。外面はナデ調整。18は高台を有する杯の底部と思われる。高台は断面方形状をなす低い貼り付け高台である。内底面にはラセン状の暗文がみられる。

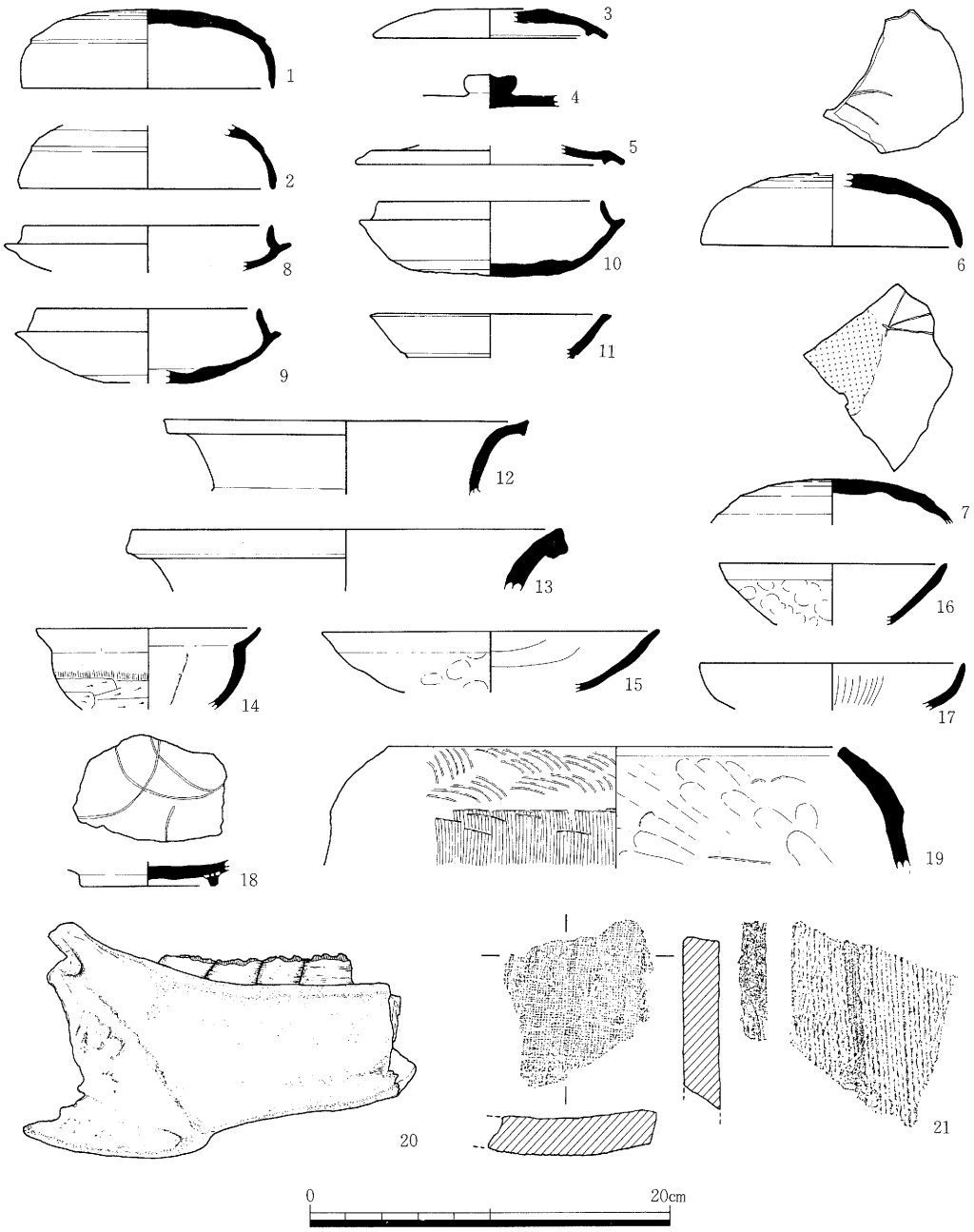
19は竈の口縁部。内傾する口縁の外面に同心円叩きがみられる。外面はハケ、内面はユビナデ調整。

20は馬の下顎骨。前部を欠くが、残存状態は良好である。これ以外にも、馬と思われる獣骨・歯が出土している。

21は平瓦。凸面に4本／cmの縄叩き目、内面に布目がみられる。一枚作りであろう。

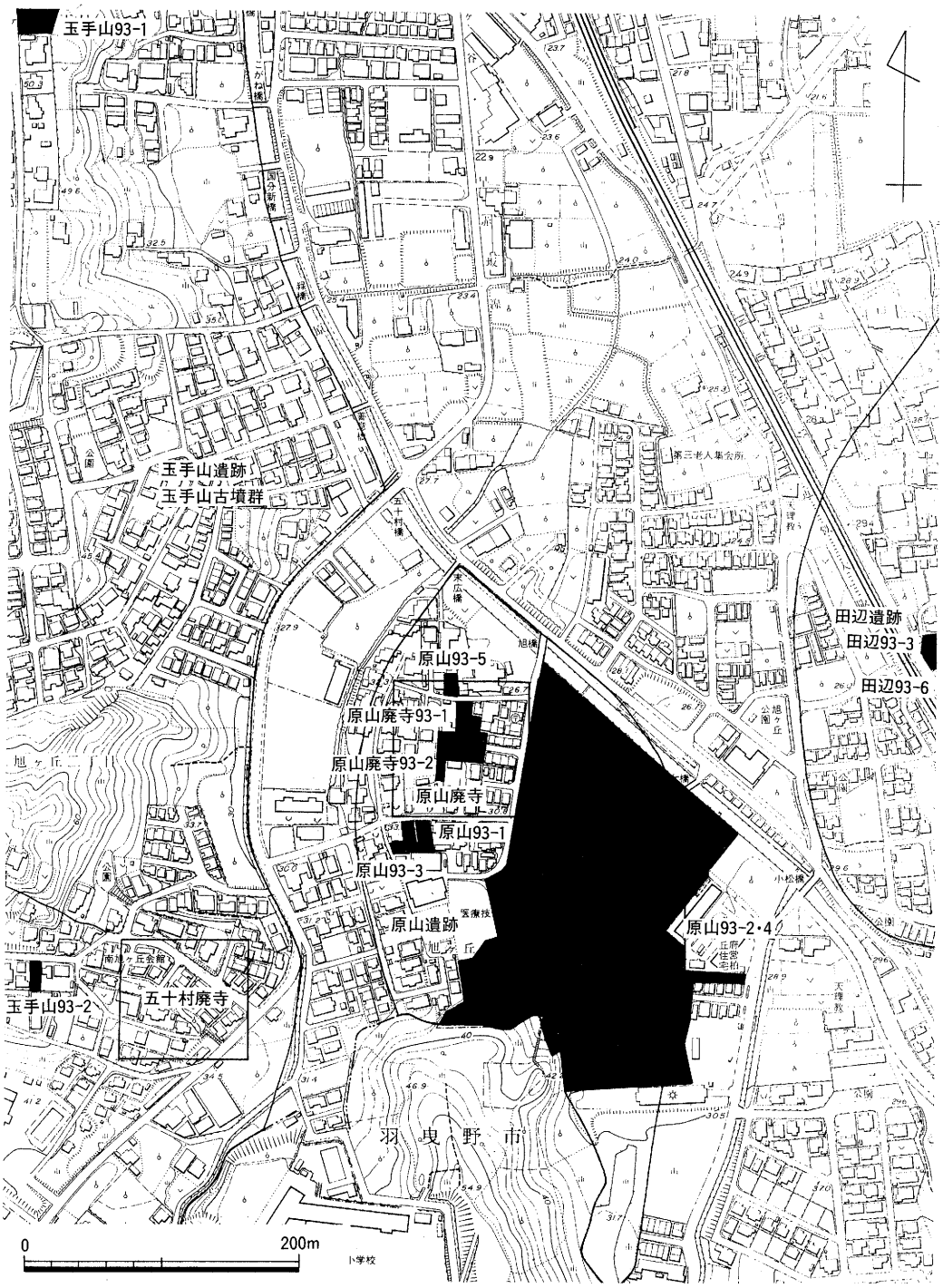
これらの遺物以外に23点の鉄滓が出土している。小塊状のものが多いが、椀形滓もみられる。最大の椀形滓は長径10.0cm、短径8.4cm、厚さ3.4cm、重量372.7gを測る。23点合計の重量は、1807.7gとなる。

出土遺物の年代幅は6～10世紀と大きいが、鍛冶が行なわれていたのは、6世紀中葉～後葉が中心だったと考えられる。鍛冶集落として著名な大県・大県南遺跡に、また一つ新しい資料が増えることになった。



図－8　出土遺物

第3章　原山遺跡



図－9　調査対象地位置図

93－3次調査

・調査対象地　　柏原市旭ケ丘3丁目1078－2

・調査期間　　1993年9月13日～17日

・調査面積　　6.6㎡／255.58㎡

・調査担当者　　安村俊史

調査地は、原山廃寺の立地する丘陵尾根上に位置する。原山廃寺の寺域南限と推定される現道路のすぐ南側に位置するため、寺院に関連する遺物・遺構の発見が予想された。調査区は、建物のガレージ予定地に1.5m四方の調査区を設定して実施し、その後1.5m×4.4mに拡張した。

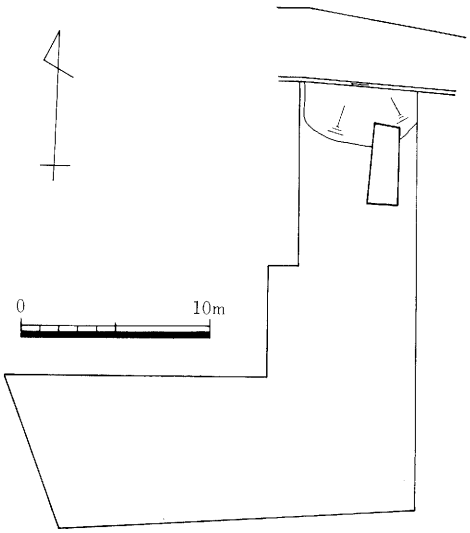
現地表から70～80㎝掘り下げると、茶褐色砂質土の遺物包含層に至る。この包含層は20～40㎝の厚さを測り、5～8世紀の須恵器・土師器・瓦を含んでいる。茶褐色砂質土の下には、黄灰色粘質土の地山がみられる。包含層・地山ともに南から北へ、西から東へとそれぞれ下がっている。遺物はコンテナ2箱分出土しているが、遺構は全く認められなかった。

図化した遺物は、いずれも包含層である茶褐色砂質土から出土したものである。

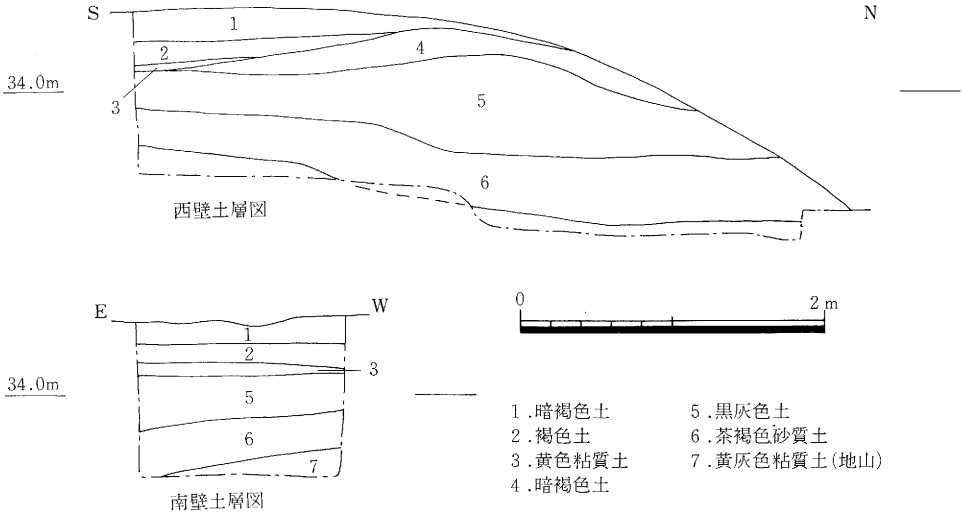
1～4は須恵器。1は有蓋高杯の蓋。口径13.9㎝、器高5.6㎝を測る。外面には明瞭な稜線がみられ、口縁端部は凹面状をなす。つまみは低く、扁平である。外面天井部にカキメがみられ、他は回転ナデ調整。2は杯蓋。内面にかえりを有する小片である。3は台付壺の台部であろう。斜下方へのびる台部は、端部で強く外方へのびる。底部との境界近くには、直径5㎜の小円孔が三方に穿たれる。全面回転ナデ調整。4は壺の口縁部。端部で厚くなる。端部外面に1条、その直下に2条、計3条の雑な波状文がみられる。

5は土師器の杯。口径13.3㎝、器高5.5㎝を測る深い杯である。口縁は緩やかに外反する。内外面とも剝離が著しく、調整等は不明である。

6～10は瓦。6は重弁八葉蓮華文軒丸瓦。中房の蓮子は、1＋8と思われ、外側の8個は方形状に並ぶと推定される。弁の先端は尖り気味になり、間弁は大きく広がる。外区は素文で平坦面となる。復元直径20.2㎝。原山廃寺では初出の軒丸瓦であるが、五十村廃寺、安堂廃寺（家原寺跡）で同型の軒丸瓦が出土している。このタイプの中房は高井田廃寺（鳥坂寺跡）で多く出土しているもので、



図－10　調査区位置図



図－11　土層図

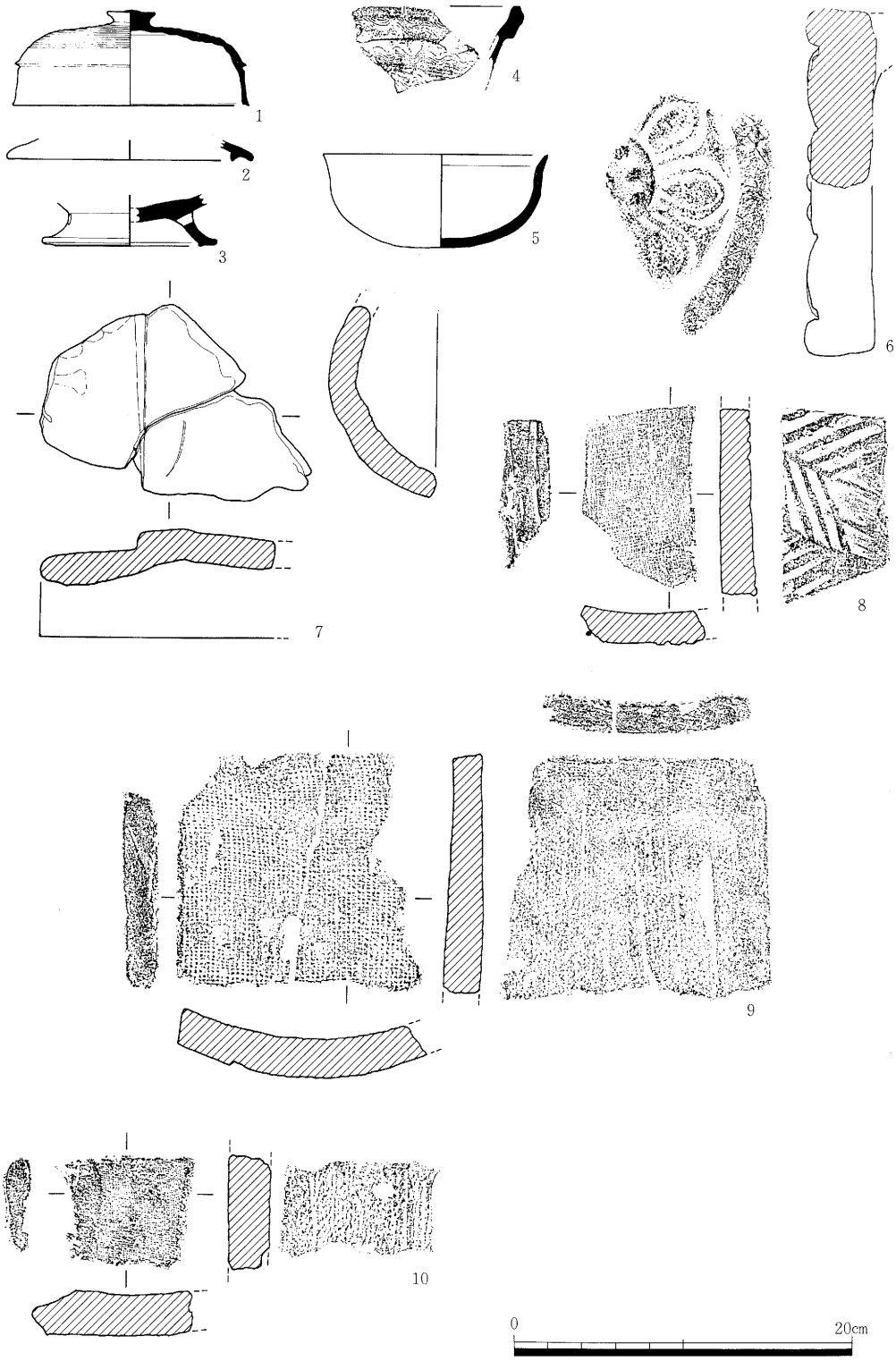
高井田廃寺にもよく似た軒丸瓦がみられるが、同型ではないようである。黒灰色を呈する。

7は丸瓦の破片。内外面とも著しく風化しており、調整は不明である。淡橙灰色を呈する。

8～10は平瓦。8の凸面には、ナデの後に有軸綾杉の叩きを施す。叩きの原体幅は7.6cmを測る。凹面には経糸7本／cm、緯糸9本／cmの布目痕が残る。側縁はヘラケズリ調整。灰白色を呈する。9の凸面は、4本／cmの粗い縄目叩きの後をナデており、端面近くには凹面と同一の布目痕がみられる。凹面の布目は経糸4本／cm、緯糸5本／cmの粗いものである。側面・端面ともに1回のヘラケズリで調整する。10の凸面は4本／cmの縄目叩き。凹面は経糸・緯糸ともに8本／cmの布目が残り、側面近くはナデ調整。側面は斜めに切り落とされる。8は桶巻作り、9．10はおそらく一枚作りであろう。

今回の調査では、初出の軒丸瓦が出土するなどの成果があった。この軒丸瓦と同型の軒丸瓦を出土する五十村廃寺は、原山廃寺の南西300mに位置する古代寺院跡である。この軒丸瓦以外にも同型の軒丸瓦が認められ、両寺院の強い関係が推定される。また、今回の調査で出土した古墳時代の遺物は、これまでに調査地東側で確認されていた古墳時代の集落が調査地付近まで広がっていたことを予想させるものであり、古墳時代以来の集落が存在した地に、飛鳥時代になって寺院が建立されたものと考えられる。

調査後、ガレージ掘削工事に際して立ち会い、少量の遺物を採集したが、遺構はやはり認められなかった。



図－12　出土遺物

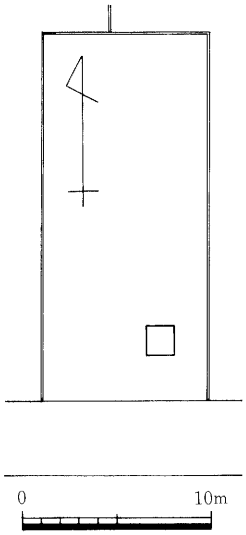
93－5次調査

・調査対象地　柏原市旭ケ丘3丁目4839－4

・調査期間　1993年11月30日

・調査面積　2.3㎡／165.28㎡

・調査担当者　安村俊史

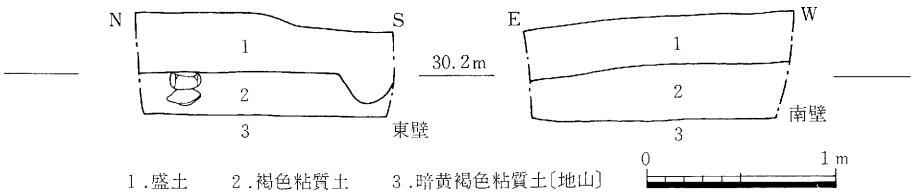


図－13　調査区位置図

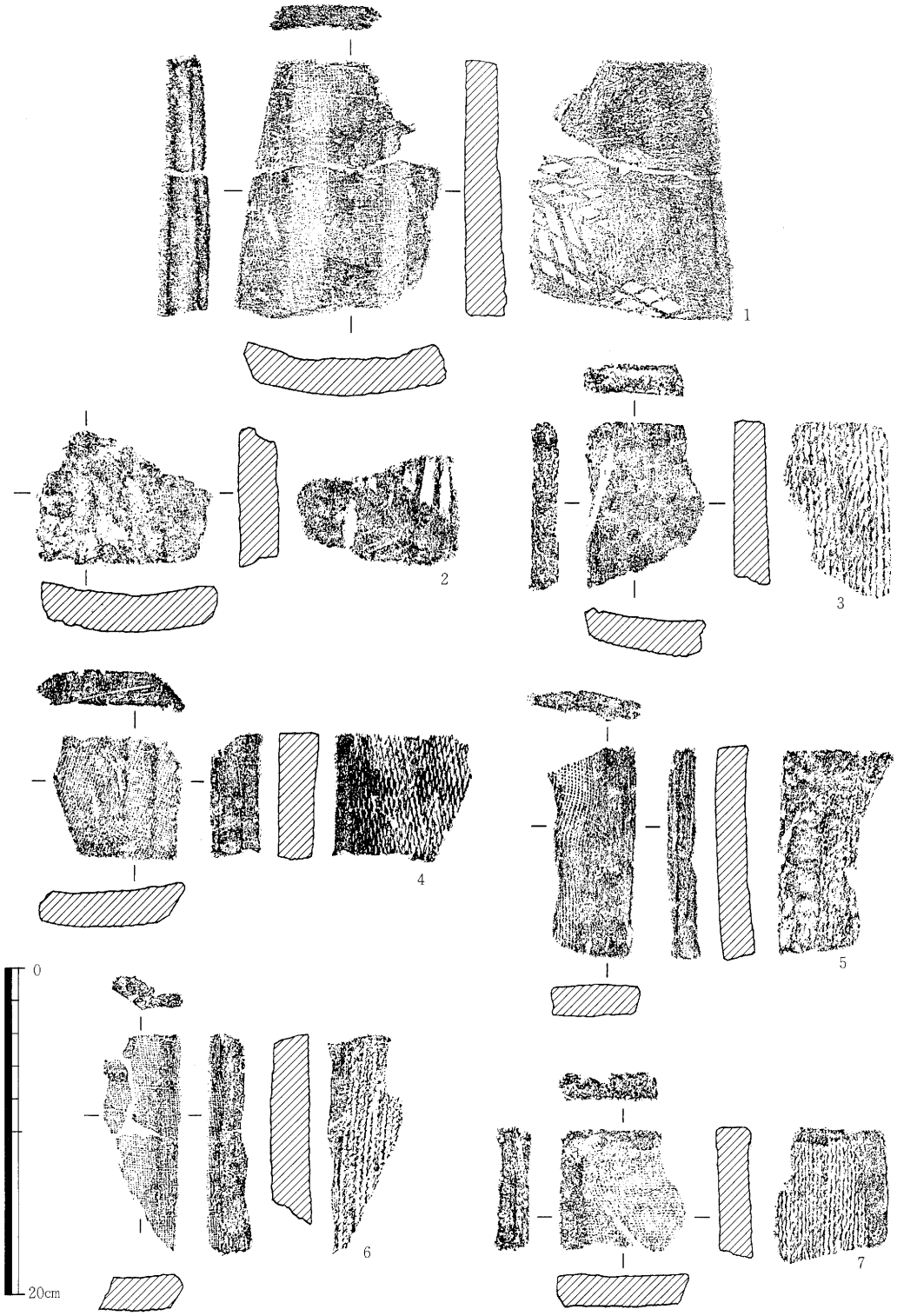
推定の原山廃寺寺域北限の道路北側に調査地は位置する。調査対象地の南東部に1.5m四方の調査区を設定し、調査を実施した。厚さ30cm前後の盛土を除くと、褐色粘質土に達し、多量の瓦を含んでいる。褐色粘質土の厚さは20～30cm、その下は暗黄褐色粘質土の地山である。遺構は認められなかった。

1～7は、いずれも平瓦である。1の凸面は、4本／cmの縄目叩きをナデ消した後に斜格子状の叩きを斜方向に施す。叩きは有軸綾杉の軸に平行する直線を加えたものである。凹面は経糸6本／cm、緯糸8本／cmの布目。枠板の幅は1.7～3.2cmである。灰黄褐色を呈する。2の凸面の叩きは有軸綾杉であろう。凹面は一部に布目が残るが、磨滅が激しい。橙褐色を呈する。3は3本／cmの縄目叩きを凸面に施す。凹面には撚紐の痕跡かと考えられるくぼみがみられる。4は4本／cmの縄目叩きを凸面に施す。凹面は経糸7本／cm、緯糸8本／cmの布目がみられ、枠板痕も残る。5は3本／cmの縄目叩きを凸面に施し、凹面には経糸7本／cm、緯糸8本／cmの布目がみられ、この布目は側縁から一部凸面にまで及んでいる。7も4本／cmの縄目叩きを凸面に施し、側縁近くに指頭痕がみられる。凹面は経糸、緯糸とも7本／cmの布目が残り、やはり側縁に沿ってナデを施す。5・6と同様に、側縁にまで布目が及んでいる。5～7は、同一の手法で作られた一枚作りと考えられる。1～4は凹面の枠板痕等から、桶巻作りによるものと考えられる。

今回の調査では一枚作りと考えられる平瓦が大半を占めており、桶巻作りの平瓦はあまり認められない。



図－14　土層図



図－15　出土遺物

第4章　原山（はらやま）廃寺

93－2次調査

・調査対象地　　柏原市旭ケ丘3丁目1075－15・16

・調査期間　　1993年10月12日～25日

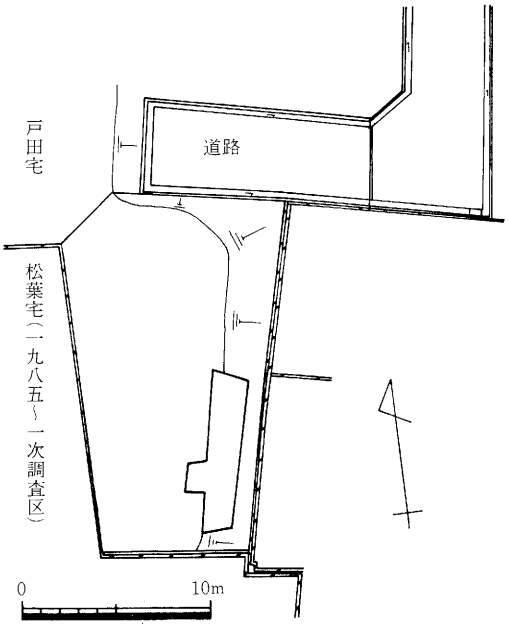
・調査面積　　16㎡／228.74㎡

・調査担当者　　安村俊史

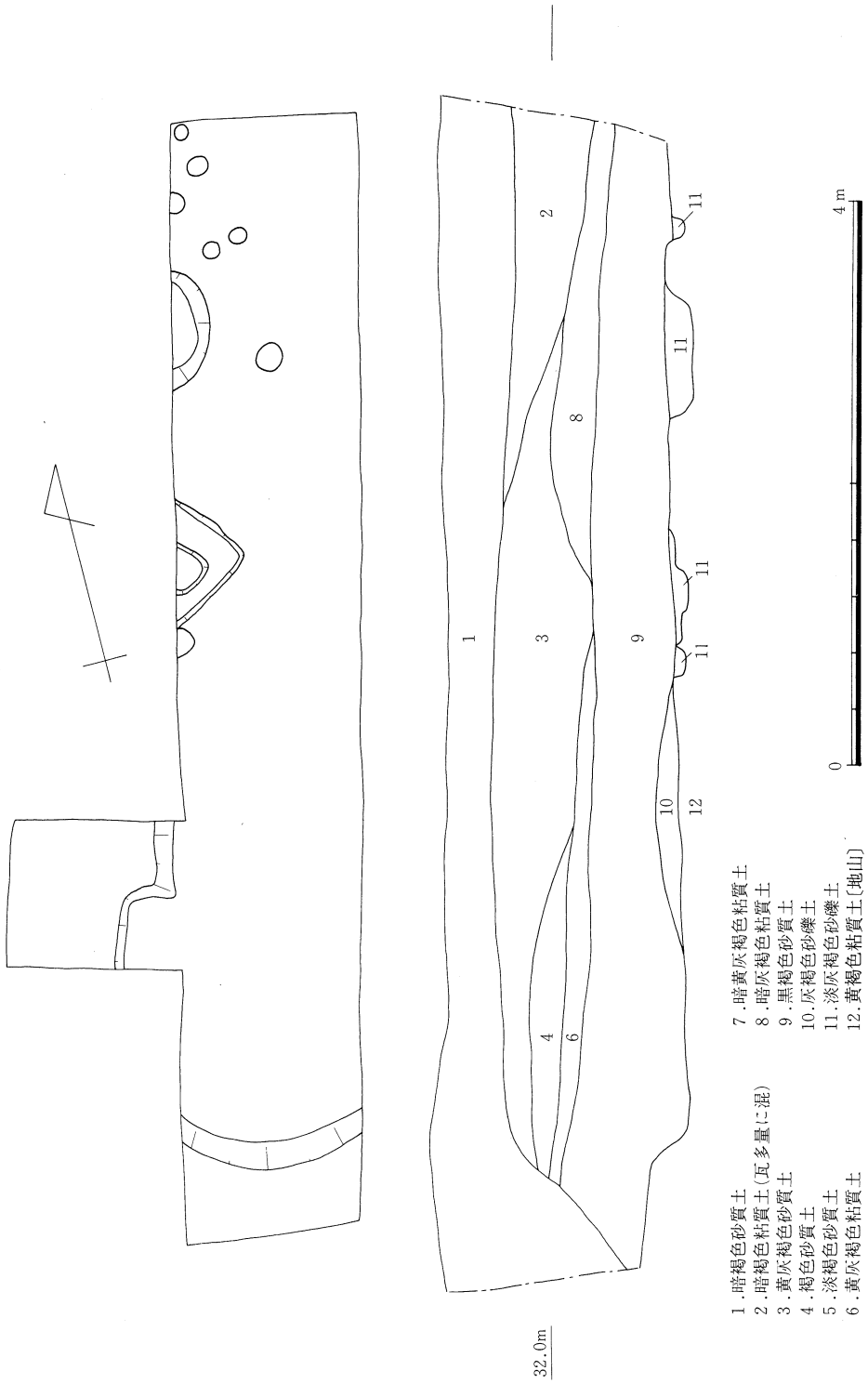
調査地は、原山廃寺の推定寺域のほぼ中央にあたり、北・東側より1.5～2m高い地形を呈し、調査前は宅地内の畑として利用されていた。この一段高い地形は西側へ続いており、1987－1次調査区、1985－1次調査区が位置する丘陵部にあたる。北東部は宅地造成工事に伴って発掘調査を実施した1993－1次調査区にあたる。今回の調査地から西・南側にかけての一帯に原山廃寺の中心伽藍が存在したものと考えられている。

調査は、個人住宅の宅地造成に伴って実施したものであり、まず調査対象地南東部に1.5m四方の調査区を設定し、10月12・13日に調査を実施した。その結果、数層から成る遺物包含層が確認されたため、コンクリート擁壁設置によって切土が必要となる東辺南半に1.5m×8mの調査区を設定し、10月19日から25日まで調査を実施した。

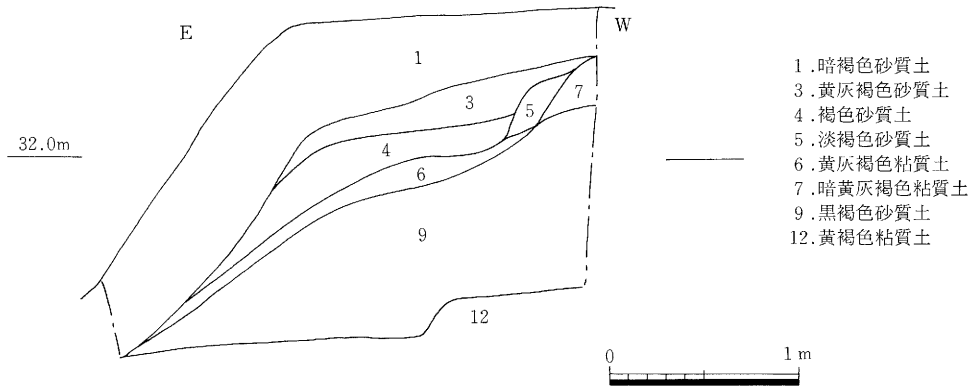
表土は30～130㎝の厚さを測り、少量の瓦を含んでいる。調査区北端でみられた暗褐色粘質土は多量の瓦を含んでおり、出土遺物の大半は、この層から出土した。7～8世紀の瓦とともに巴文軒丸瓦（15）や瓦質の羽釜（13）などが出土しており、中世の2次堆積遺物と考えられる。第3層黄灰褐色砂質土は少量の瓦が出土するものの遺物量は少なく、第4層褐色砂質土以下では遺物量は極端に少なくなり、瓦は全くみられない。多少の遺物混入がみられるようであるが、第3～8層から出土した遺物は須恵器（4・6・7・9）、土師器（10～12）、第9層から出土した遺物は須恵器（1～3・5・8）である。第9層黒褐色砂質土は5～6世紀の遺物包含層と考



図－16　調査区位置図


1
2
3
4
6
8
9
10
11
12
32.0m
0
4 m
1.暗褐色砂質土
2.暗褐色粘質土(瓦多量に混)
3.黄灰褐色砂質土
4.褐色砂質土
5.淡褐色砂質土
6.黄灰褐色粘質土
7.暗黄灰褐色粘質土
8.暗灰褐色粘質土
9.黒褐色砂質土
10.灰褐色砂礫土
11.淡灰褐色砂礫土
12.黄褐色粘質土(地山)

図－17　平面図・土層図



図－18　土層図

えて問題ないであろう。第４～８層は薄い層となり、東西断面の土層から判断すると、西から東へと人工的に積まれた土層ではないかと考えられる。出土遺物は６～７世紀のものであり、寺院建築時の整地層ではないかと考えられる。各層は非常に堅く締まっており、掘り下げるのに難渋した。おそらく、叩き締めながら積み上げていかれたのであろう。第３層黄灰褐色砂質土は寺院建築後の堆積層であろう。

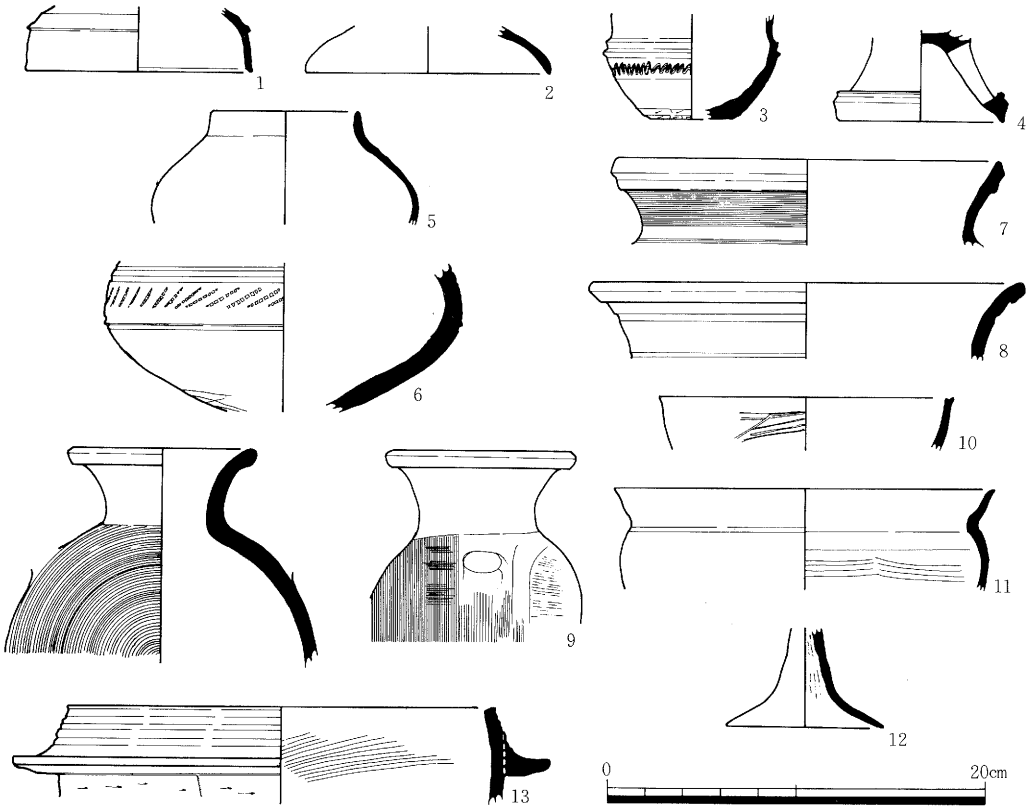
遺構は黄褐色粘質土の地山面で若干検出された。楕円形と方形の土坑、もしくはピットと考えられる遺構は調査区西側へと続いている。これ以外に小ピットが７個確認されている。いずれも埋土は淡灰褐色砂礫土である。遺構内からは遺物の出土をみなかったが、古墳時代のものであろう。また、調査区の西側と南側では地山が一段高くなっている。

出土遺物は、須恵器・土師器・瓦質土器・瓦がみられる。

１～９は須恵器。１は明瞭な稜線を有する杯蓋。口縁端部は凹面状をなす。２は稜線がみられず、低い杯蓋である。３は椀。おそらく把手を伴うものであろう。平底の底部から体部は外方へ開き、２条の凸線を経て口縁は直立する。外面に６条１単位の細かい波状文がみられ、底部外面は手持ちヘラケズリで仕上げる。４は高杯脚部。脚は低く三方に長方形の透し窓が穿たれる。５は短頸壺。口縁は短く直立し、体部の張りは強い。６は壺の体部から底部にかけての破片である。３条の凹線間に櫛状工具による刺突文がめぐる。底部には線刻がみられる。７・８は甕の口縁部。７の外面はカキ目で調整、８の外面には２条の凹線がめぐる。９は提瓶。口縁は外反し、端部を丸くおさめる。体部前面はカキ目調整、背面は回転ヘラケズリ後にハケを加え、ナデで仕上げる。釣り手は欠損するが、環状にはならない。

10～12は土師器。10は杯。外面にヘラミガキがみられる。11は鉢。体部外面は指頭調整、内面はハケメ。12は高杯の脚。裾広がりの形態となる。

13は瓦質の羽釜。短い鍔はほぼ水平に取り付き、内傾する口縁の外面には５条の沈線がみられる。体部外面はヘラケズリ、内面はハケメをナデ消している。



図－19　出土遺物

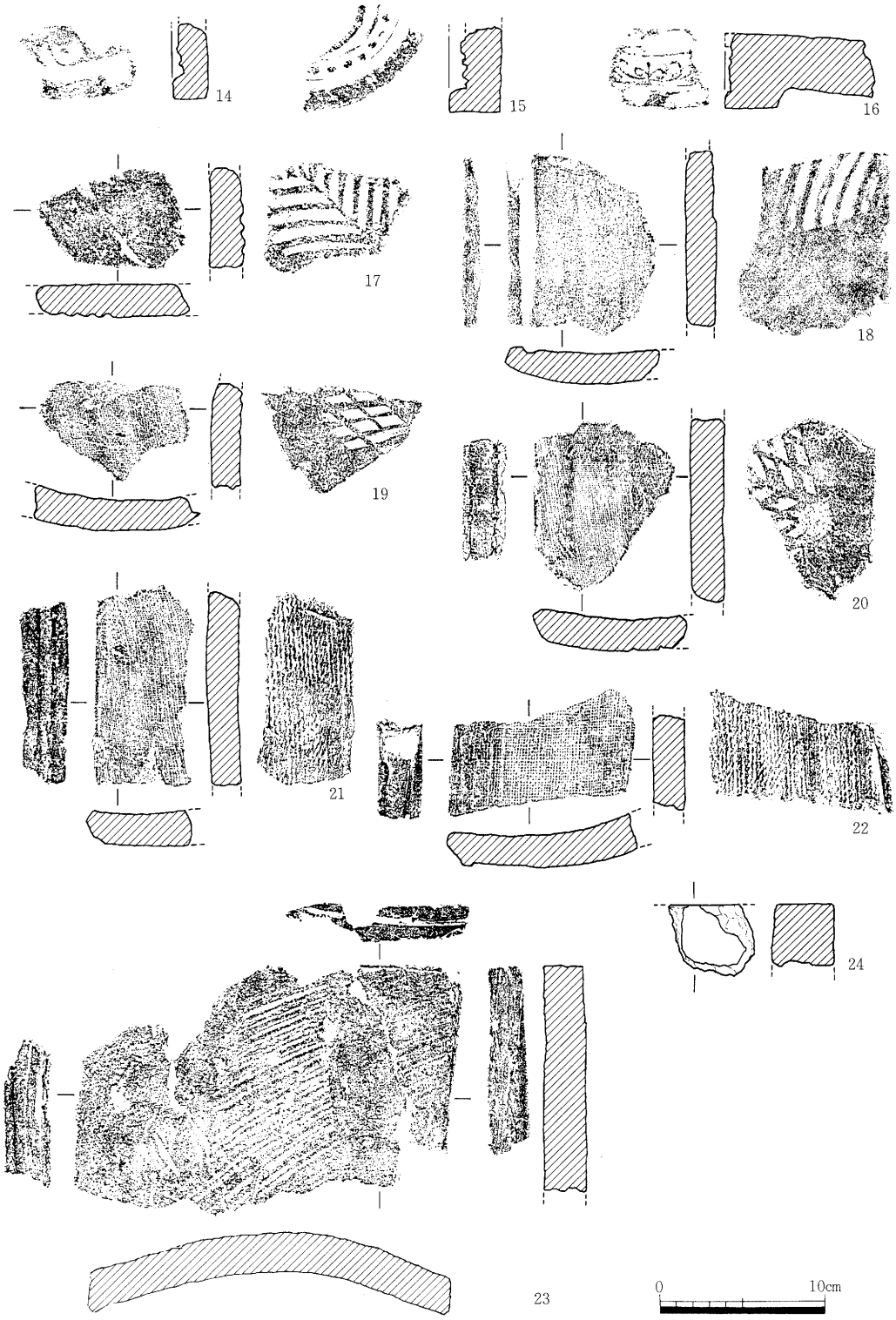
14・15は軒丸瓦。14は蓮華文軒丸瓦。複弁であろう。外区は素文。暗黄褐色を呈し、雲母・石英・長石等の砂粒を含む。15は巴文軒丸瓦。圏線を介して珠文がめぐる。

16は均整唐草文軒平瓦。外区は素文。凹凸面ともにナデで仕上げる。灰白色を呈し、須恵質の焼成である。

17～23は平瓦。有軸綾杉の叩きを有するもの（17・18）、変形した有軸綾杉が斜格子状となる叩きを有するもの（19・20）、縄目叩きを有するもの（21・22）がみられる。19には先行する縄目叩きが残っており、これをナデ消した後に斜め格子状の叩きを施したものであろう。17～22は、いずれも桶巻作りによるものと考えられる。23は幅22.0㎝を測る。凸面は粗いハケ状工具による成形後に板ナデ、ナデを施す。凹面は丁寧なナデによって仕上げられている。17～22は７世紀代、23は中世の平瓦である。

24は塼であろう。厚さ3.8㎝、残存する３面はいずれも平滑に仕上げられている。長石粒を僅かに含み、赤褐色を呈する。

以上の調査結果から、調査区周辺は５～６世紀の集落があった地に、７世紀代に整地を行なうことによって寺院を建立。寺院はおそらく中世頃まで存続したものと考えられるが、詳細については出土遺物が少なく、断定できるものではない。



図－20　出土遺物

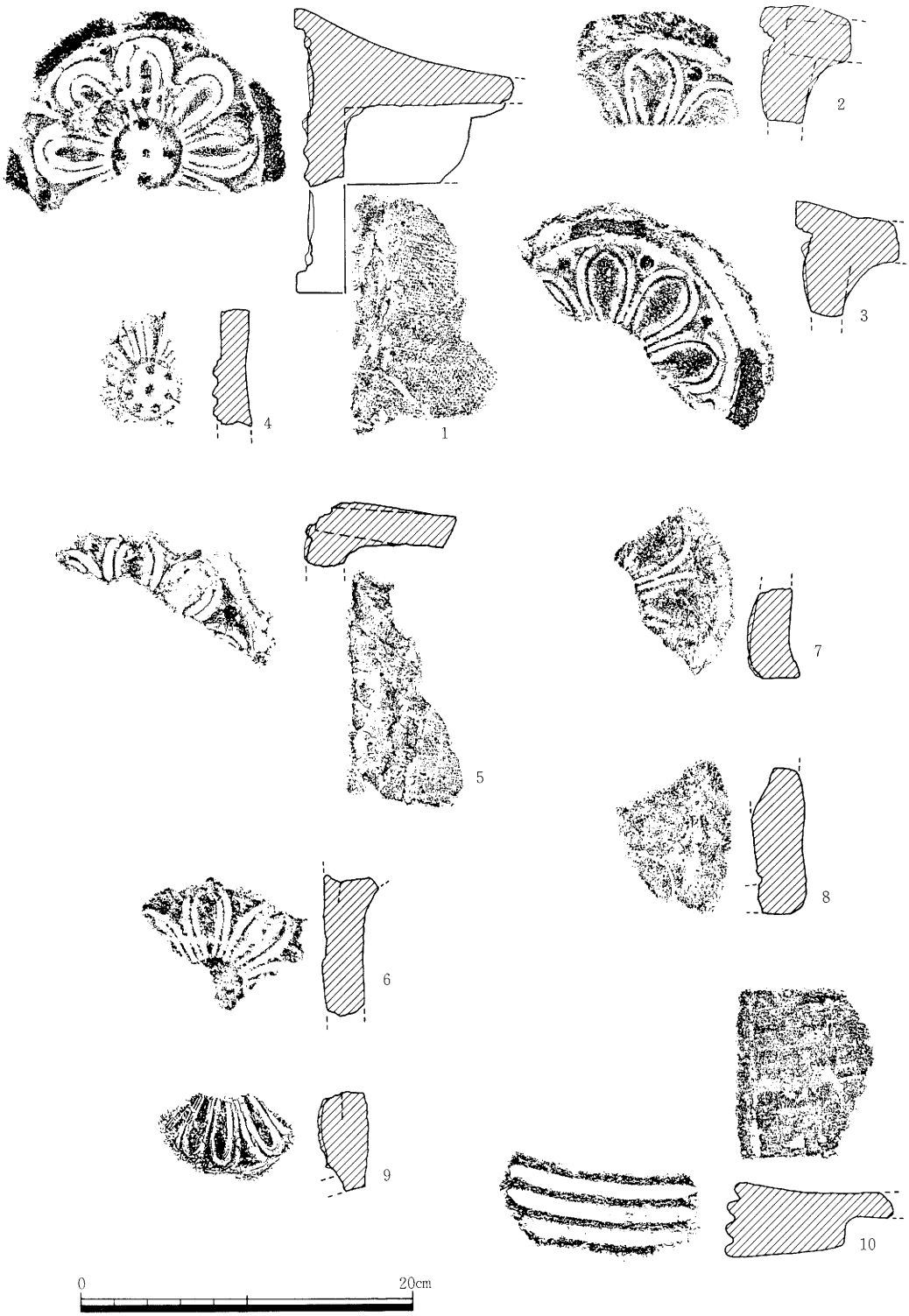
図－21・22は、原山廃寺93－１次調査で出土した瓦（１）と、93－１次調査対象地内での個人住宅宅地造成に伴うコンクリート擁壁設置工事中の立会調査で出土した瓦（２～16）である。

１～９は軒丸瓦。１は重弁八葉蓮華文。中房の蓮子は１＋４で直径4.4㎝。弁間には珠文を配し、外区は素文。丸瓦部は瓦当上端より下がった位置に取り付き、粘土の補充は少ない。丸瓦部凸面はタテ方向のヘラケズリ、凹面には布目が残る。２・３も重弁八葉蓮華文。弁間に珠文を配する点は１と同じであるが、１よりも弁の幅がやや広く、弁の先端が尖り気味になる。過去の出土例から考えると、中房の蓮子は１＋８と推定される。４は同じく重弁八葉蓮華文軒丸瓦の中房部分であり、１＋７の蓮子を配する。弁が細い線によって表現されている点と中房の蓮子が１＋７であることから、弁間に珠文を配し、弁中央に稜線を伴う重弁蓮華文と推定される。５も弁間に珠文を配する重弁八葉蓮華文であり、２・３と同型かもしれない。６も重弁八葉蓮華文であり、１と同型か。７・８も重弁八葉蓮華文であり、２・３と同型であろう。９は複弁八葉蓮華文である。

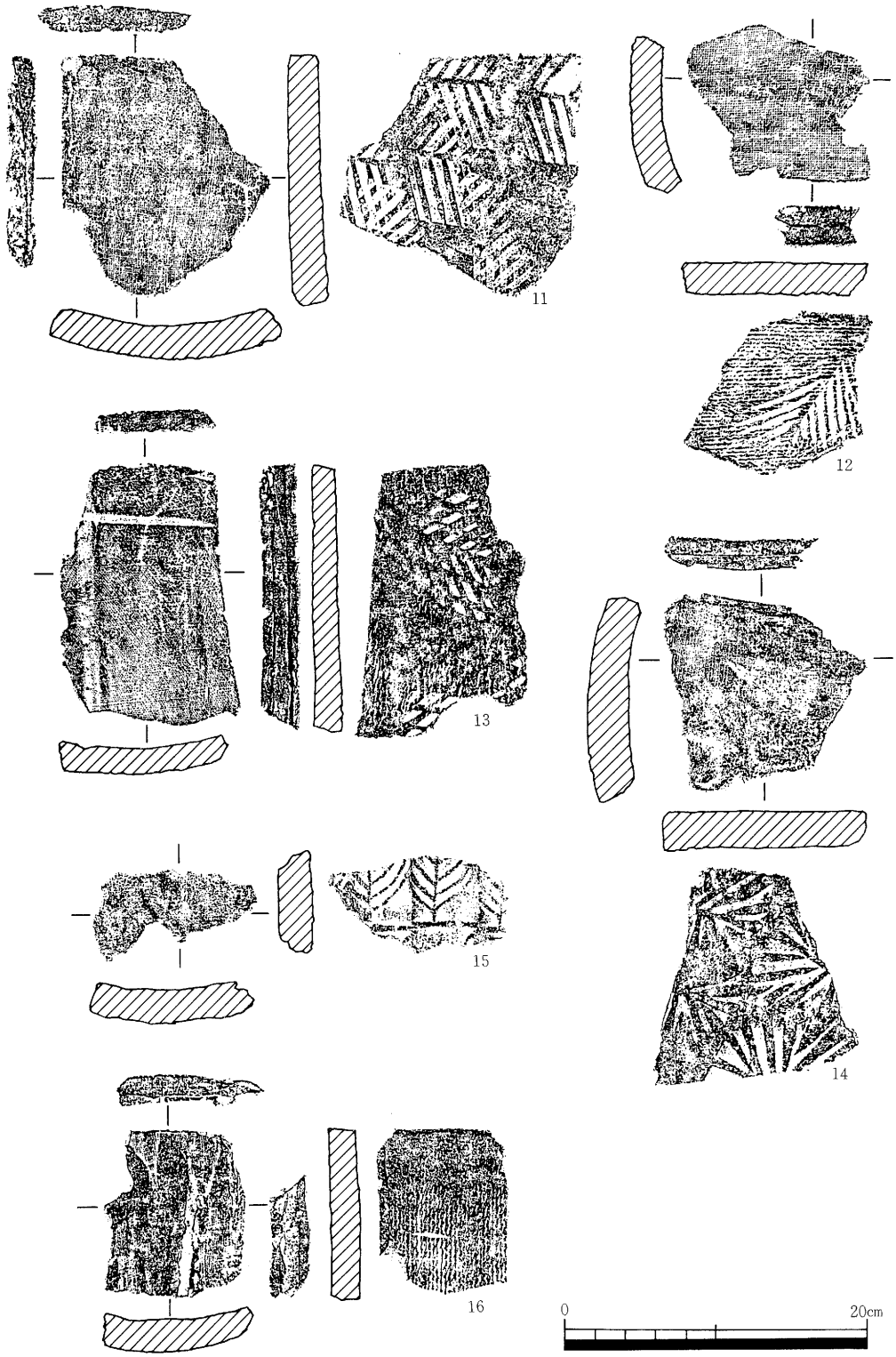
今回の出土例の中で、１の軒丸瓦は初見のものである。これによって、原山廃寺の重弁八葉蓮華文軒丸瓦は少なくとも３型式存在することになる。いずれも弁間に珠文を配する点で共通するが、中房の蓮子が１＋４、１＋７、１＋８と異なり、弁の幅なども微妙に異なっていることがわかる。

10は重弧文軒平瓦。段顎式で、側縁は斜めにカットされている。

11～16は平瓦。11・12は有軸綾杉の叩きを施す。11は凸面にナデを施した後に、横方向に叩きを施し、12は縄目叩き後に斜方向に施している。11の綾杉は鈍角、12の綾杉は鋭角をなす。13は凸面に縄目叩きを施した後にナデによって縄目を擦り消し、斜格子状の叩きを加える。斜格子は有軸綾杉の軸に平行する直線を加えたものであり、斜方向に施されている。14の凸面の叩きは有軸綾杉の変形であり、１本の軸線から放射状に直線がのびる。15も有軸綾杉の変形と考えられる。１本の直線とそれに直交する細い直線がみられ、後者の直線から樹枝状に細い線が両側にのびている。原体幅は５㎝前後であろう。16は縄目叩き。縄目は３本／㎝で縦方向に施される。端面近くは縄目を擦り消しており、隅角部は斜にカットされている。出土瓦全体では、11のタイプの有軸綾杉叩きが最も多く、次に縄目叩きが多い。12～15の叩きは、それぞれ数点を認めるにすぎない。11～16は、側縁の調整法や凹面の枠板痕から、いずれも桶巻き作りによる瓦と考えられる。今回の立会調査では多量の瓦が出土しているが、その大半は桶巻き作りによる平瓦である。

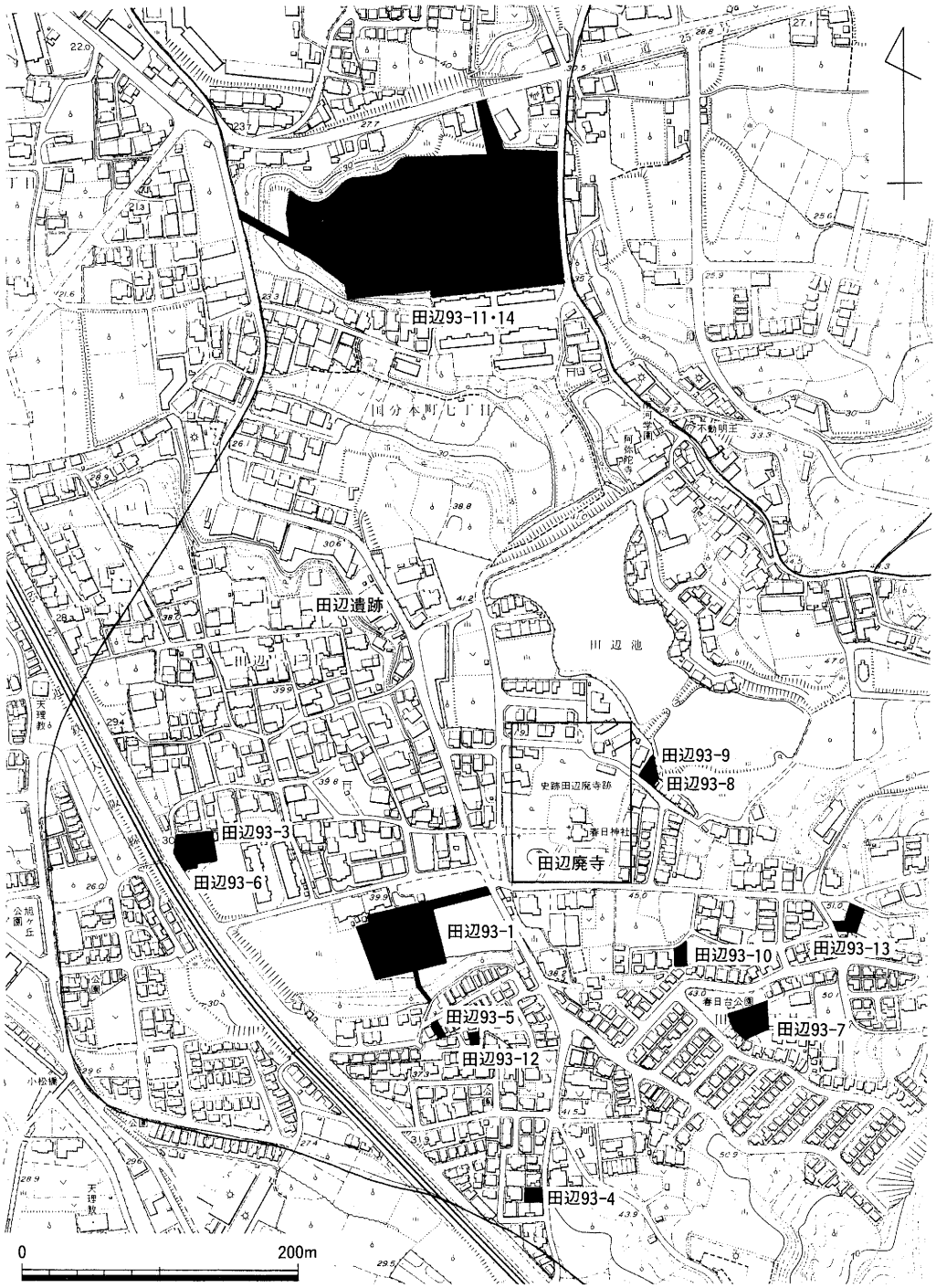


図－21　立会調査等出土遺物



図－22　立会調査等出土遺物

第5章　田辺遺跡



図－23　調査対象地位置図

93－３次調査

・調査対象地　　柏原市田辺１丁目８－３

・調査期間　　1993年４月５日

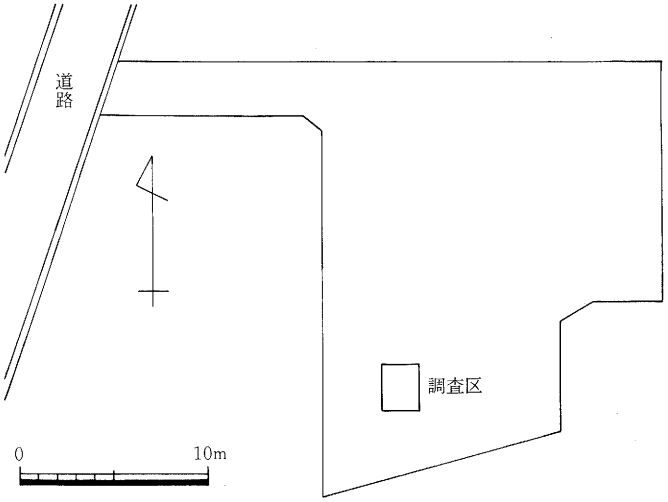
・調査面積　　５㎡／354.06㎡

・調査担当者　　安村俊史

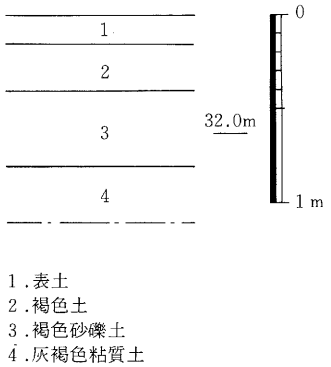
調査地は、田辺廃寺の存在する東から西へのびる丘陵尾根の先端近くに位置し、かなりの比高差で西へ傾斜している。調査区は、調査対象地の南端近くに、南北2.5ｍ、東西２ｍの規模で設定した。

層序は、15㎝厚の表土を除くと過去のぶどう畑に伴う耕土が25㎝の厚さでみられ、その下層にはぶどう畑開墾に伴うと考えられる褐色砂礫土の盛土が40㎝の厚さでみられる。更にその下層には少量の遺物を含む灰褐色粘質土が地表下110㎝以下まで続いている。一方、調査区中央よりやや北寄りの位置では、地表下90㎝で黄褐色砂礫土の地山がみられ、東西方向へのびている。その北側は緩やかに、また南側は急傾斜で地山が落ち込んでいるようであり、地山の落ち込み状況は十分に確認できていない。その形状からは畦畔かと思われるが断定できるものではない。灰褐色粘質土からは、奈良時代の須恵器片２点、土馬１点、中世の瓦質羽釜が１点出土している。この状況から考えると、地山の落ち込みは、奈良時代の遺構になるのではないかと考えられる。

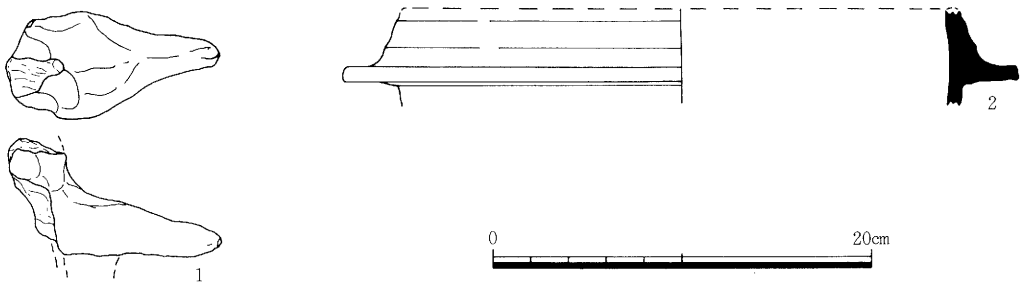
これらの遺物と共に、サヌカイトの原石が７点出土している。サヌカイト原石は、黄褐色砂礫土の地山からも出土しており、田辺遺跡の立地する丘陵からは、広範にサヌカイト原石の出土を見ることができる。



図－24　調査区位置図



図－25　土層模式図

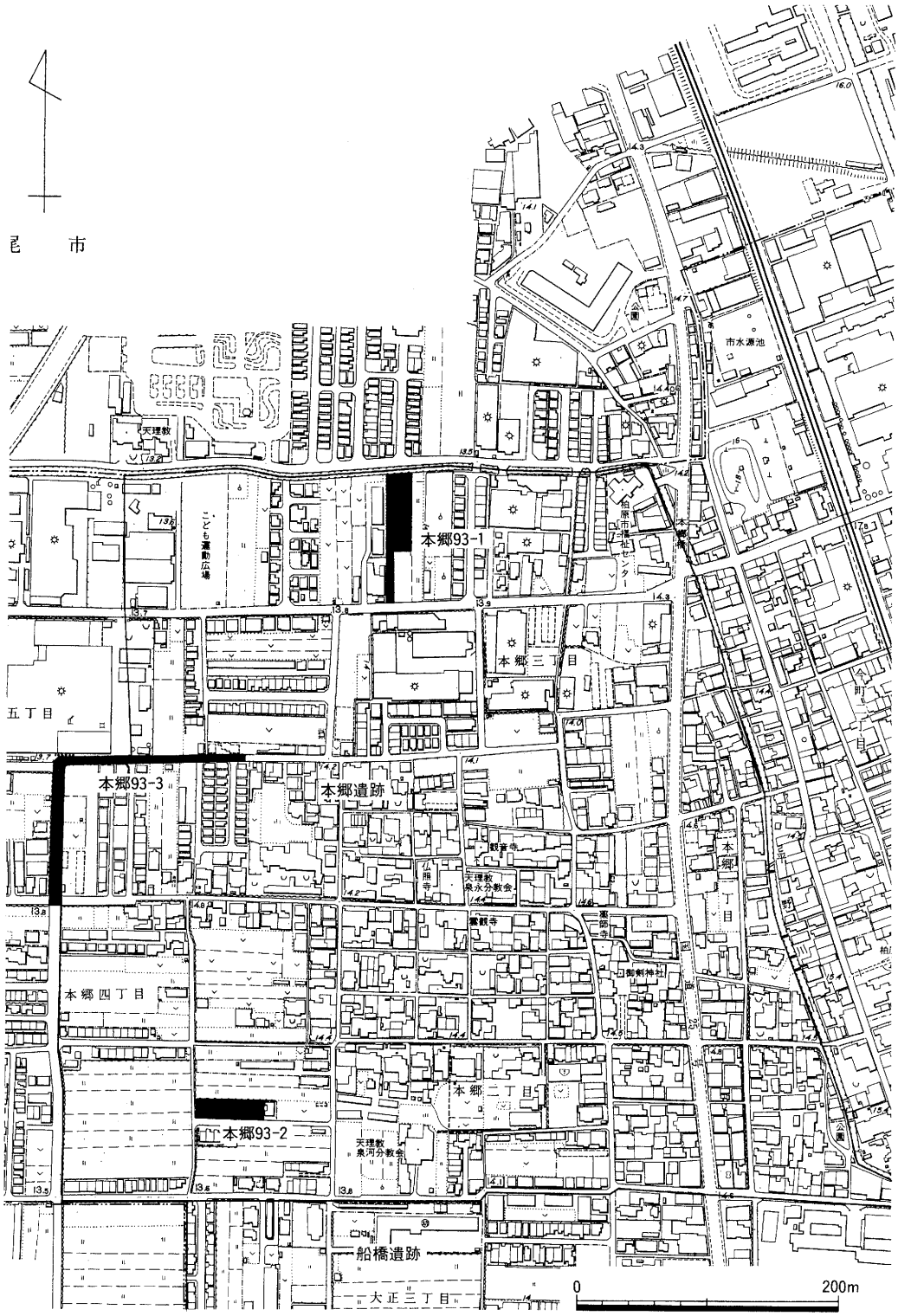


図－26　出土遺物

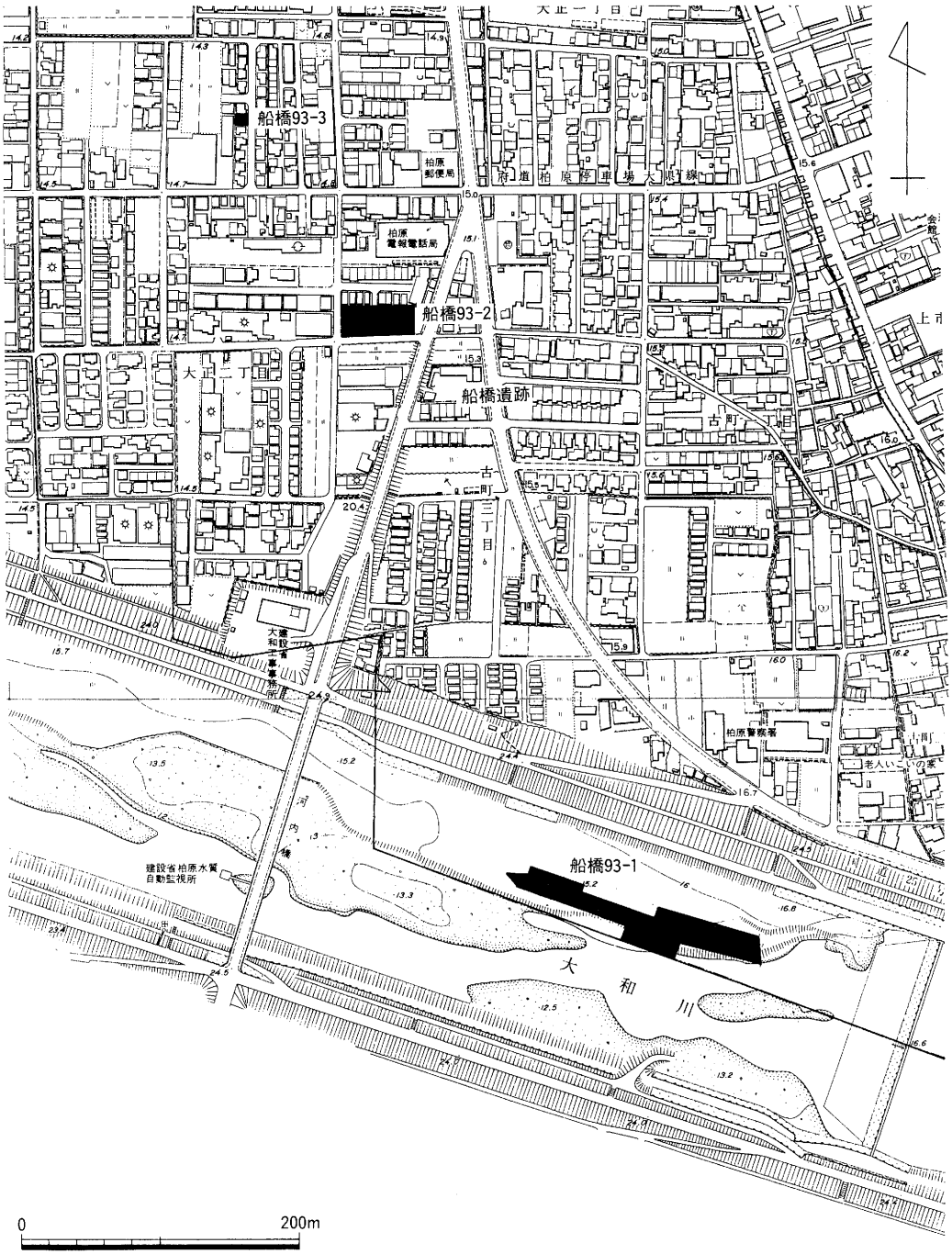
図化できた遺物は２点のみである。１は土師質の土馬。胴部後半が残るのみである。胴から首にかけての部分は縦方向のユビナデで仕上げられており、たて髪の表現が一部にみられる。尾は完存しており、後方へ直線的にのびる。脚は欠損しているが、後脚の太さは、最も太い部分で３㎝×２㎝前後となる。全体に丁寧なナデで仕上げている。

２は瓦質の羽釜。口縁部は強いヨコナデを３段に施すことによって段状をなし、短い鍔は水平にのびる。鍔から口縁にかけてはヨコナデ、他は内外面ともにナデ調整のようである。口径は復元値で29.0㎝を測る。中世の遺物は、これ１点のみである。

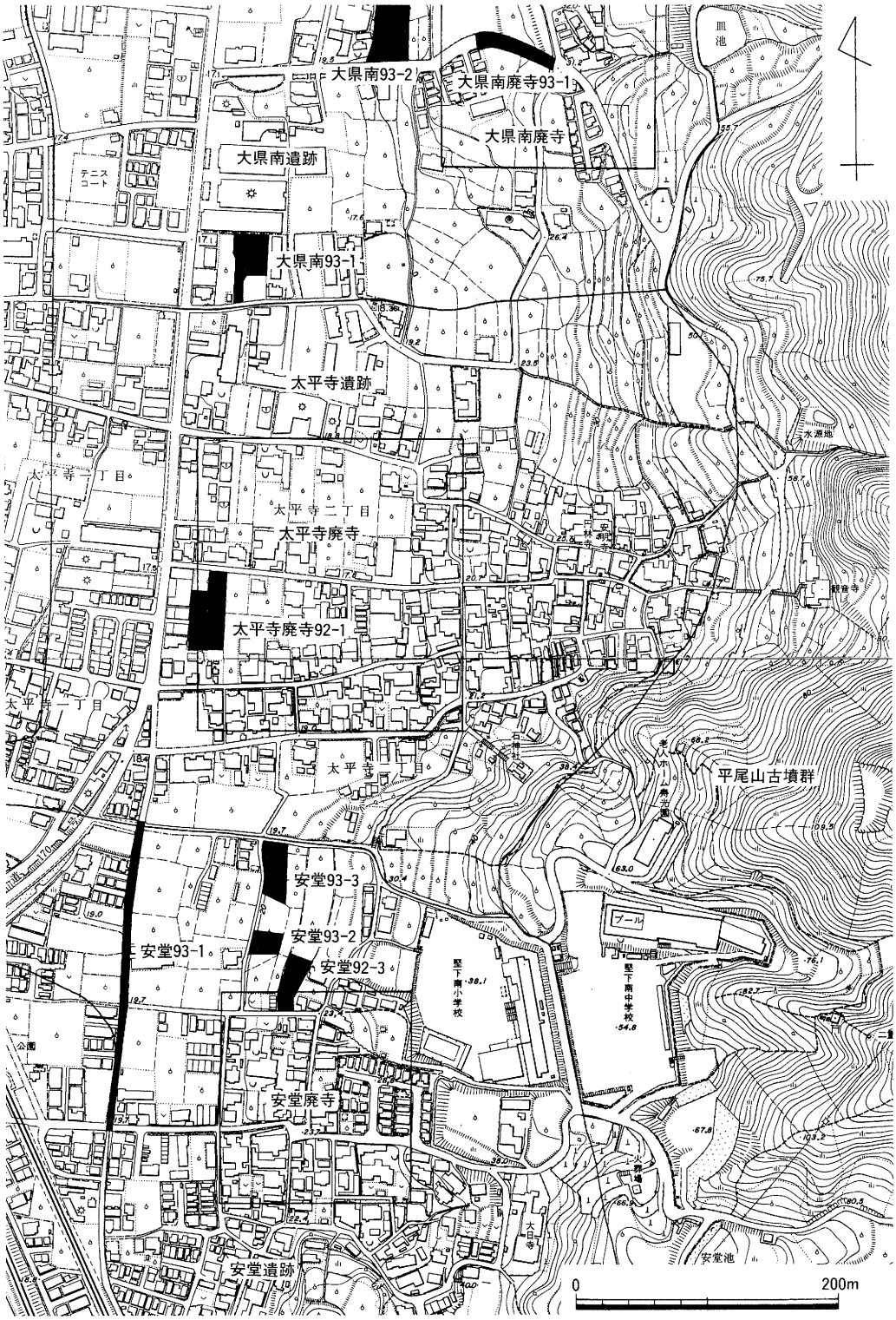
調査地周辺は、丘陵の傾斜地にあたることと、国道165号線に面することなどから、過去にかなりの削平がみられる。そのため、たとえ僅かとはいえ、遺物が確認されたことは、調査地周辺に遺跡が残存していることを示すものであり、注意しておく必要がある。建築予定建物の基礎が盛土内におさまるため、今回の調査では、調査範囲の拡張は行なっていない。



図－27　本郷遺跡調査対象地位置図

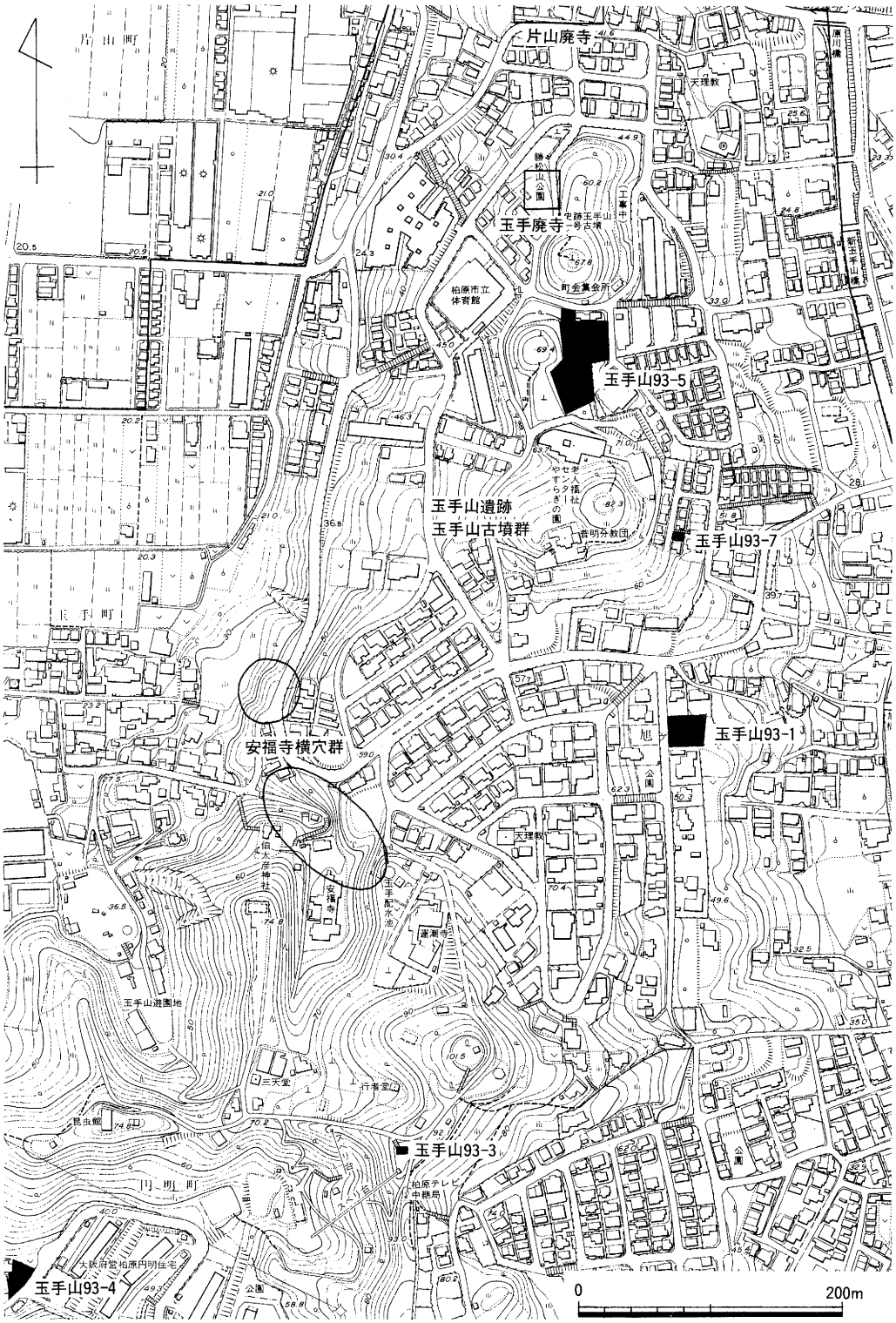


図－28　船橋遺跡調査対象地位置図

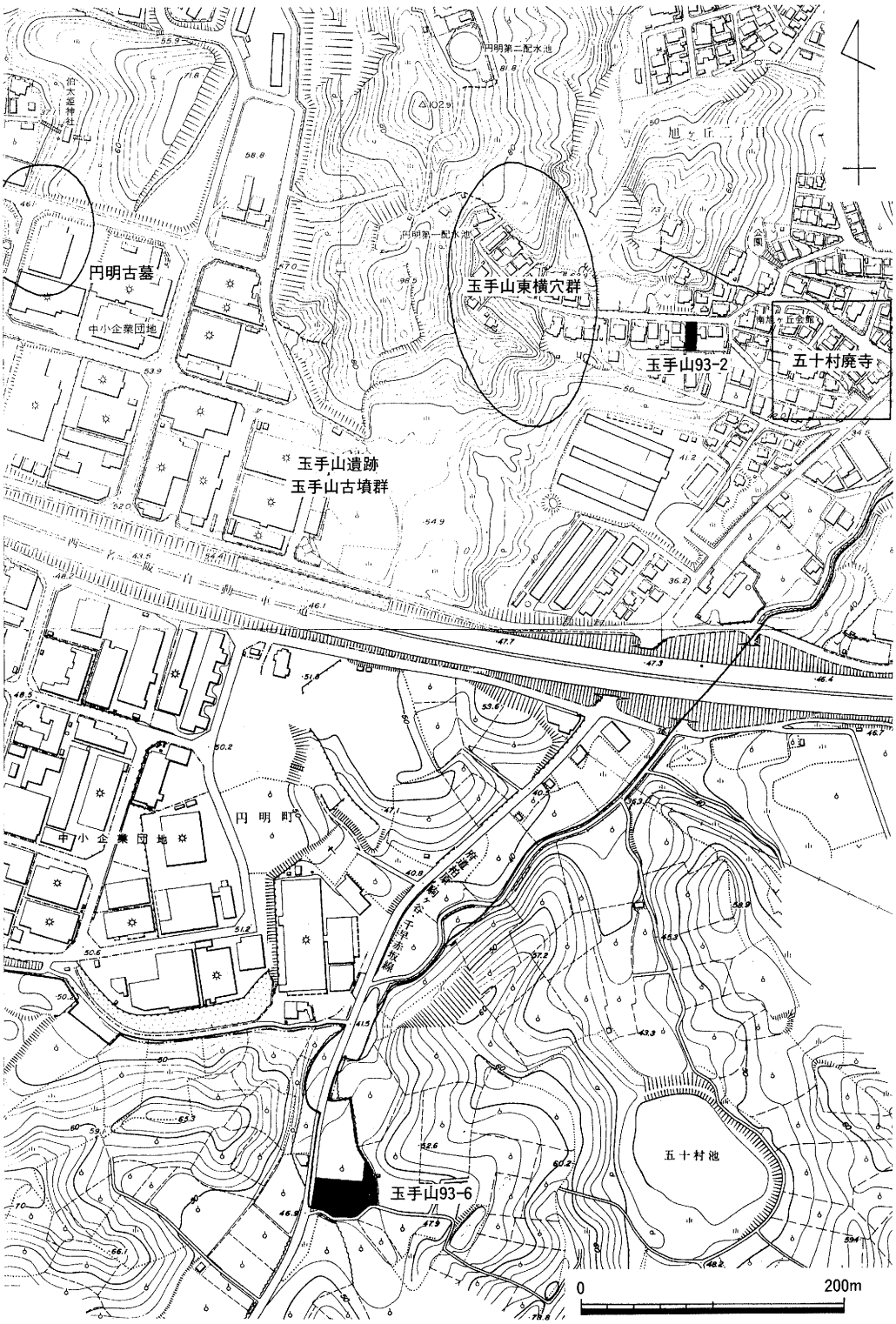


図－29　大県南・太平寺・安堂遺跡調査対象地位置図

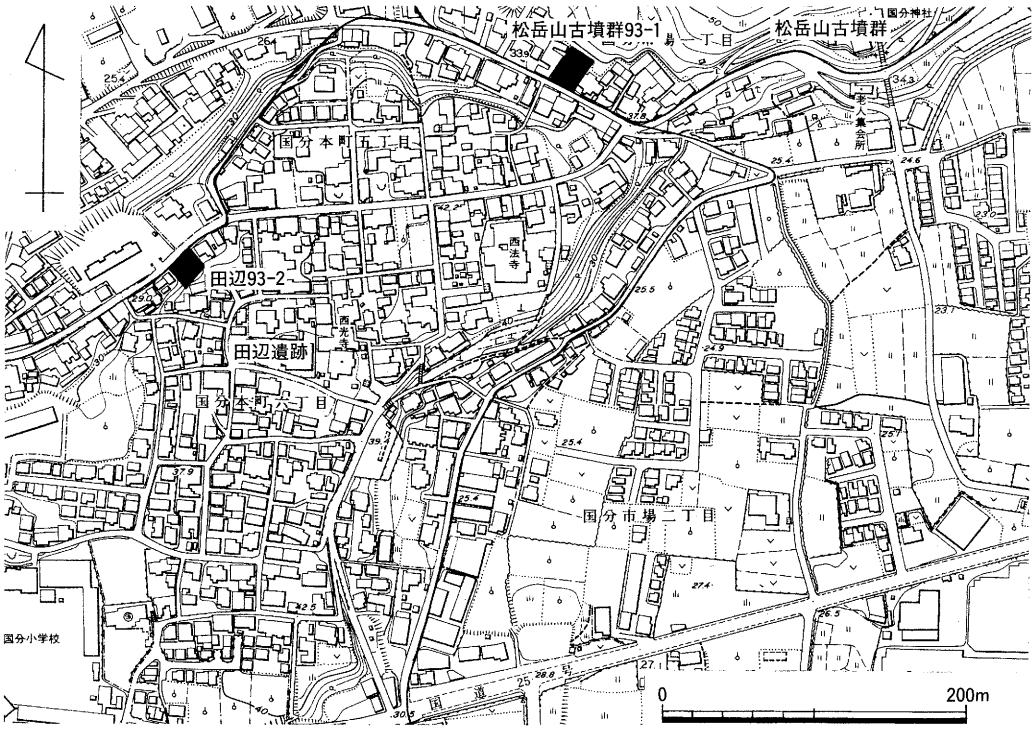
図－30　平尾山古墳群調査対象地位置図



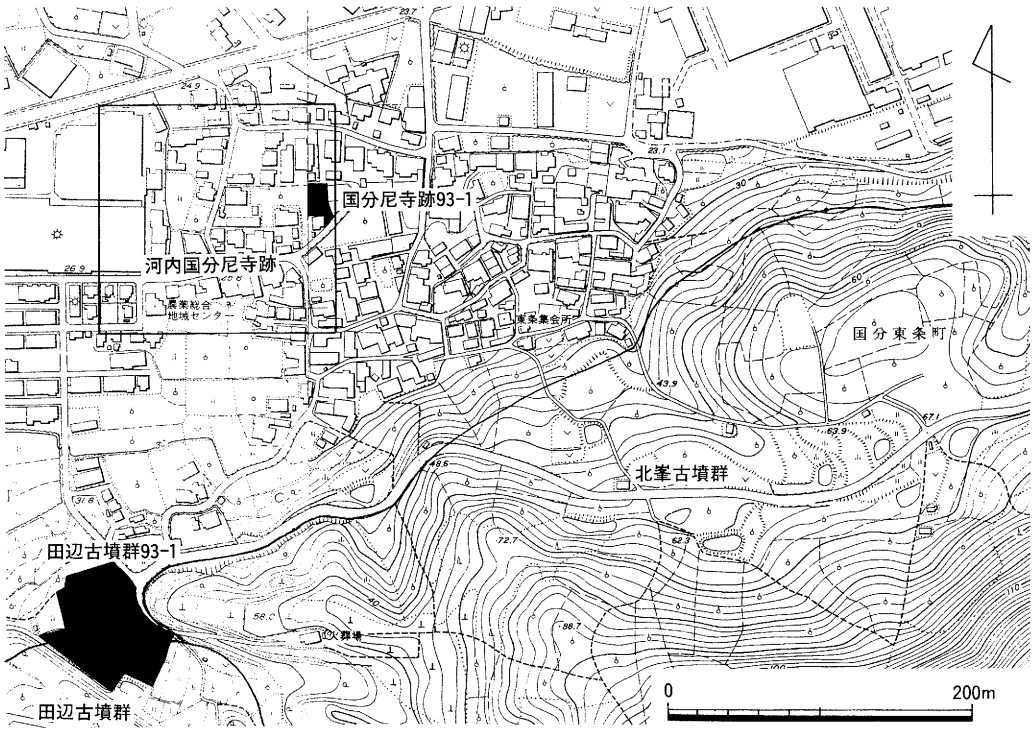
図－31　玉手山遺跡調査対象地位置図



図－32　玉手山遺跡調査対象地位置図



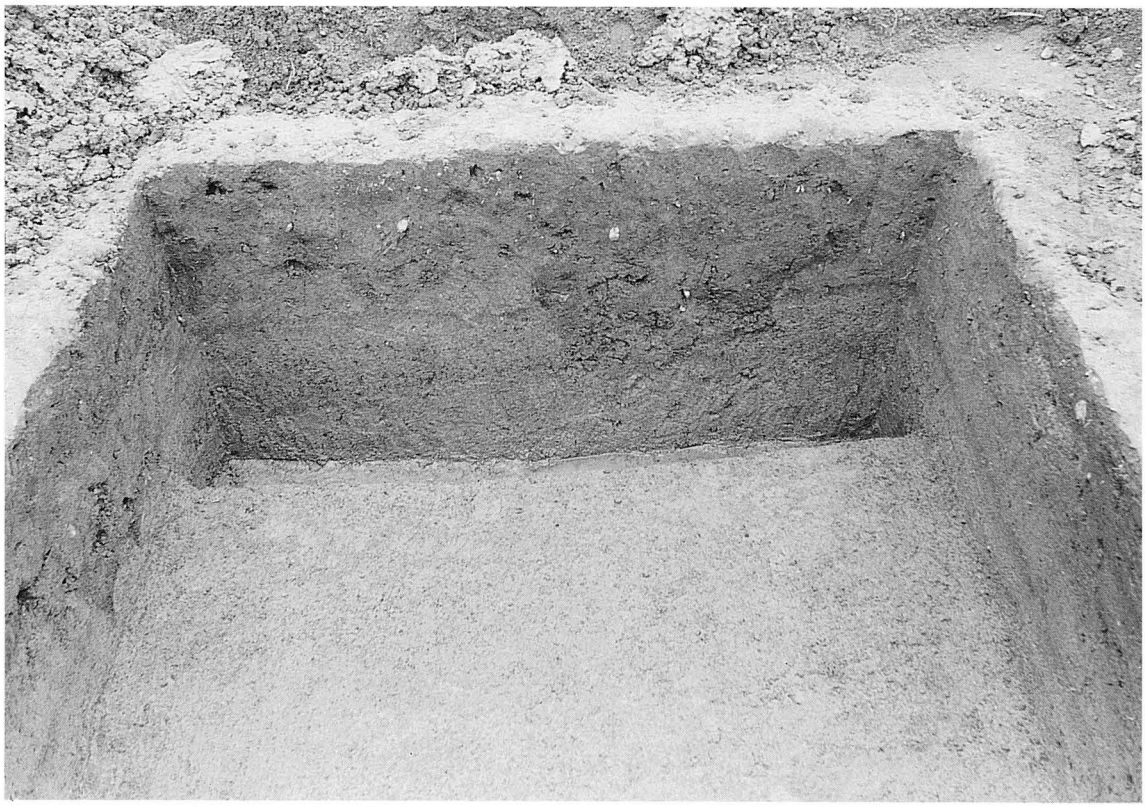
図－33　田辺遺跡・松岳山古墳群調査対象地位置図



図－34　田辺古墳群・河内国分尼寺跡調査対象地位置図

図　　版

全景（北から）



東壁土層（南から）

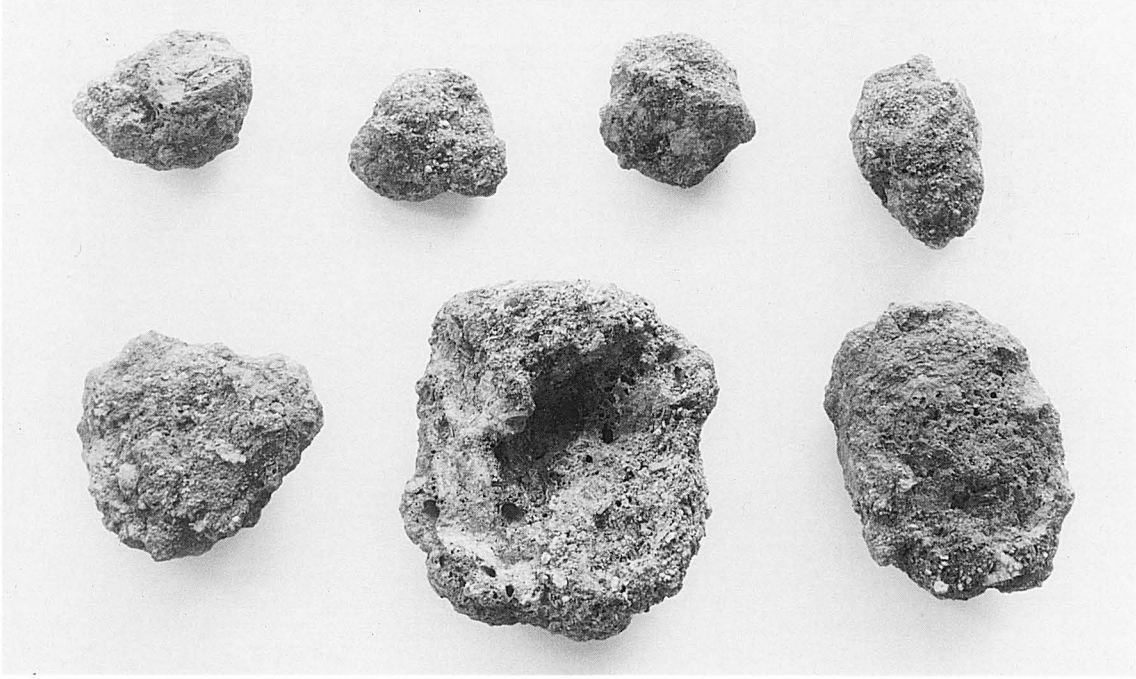
全景（西から）

東壁土層

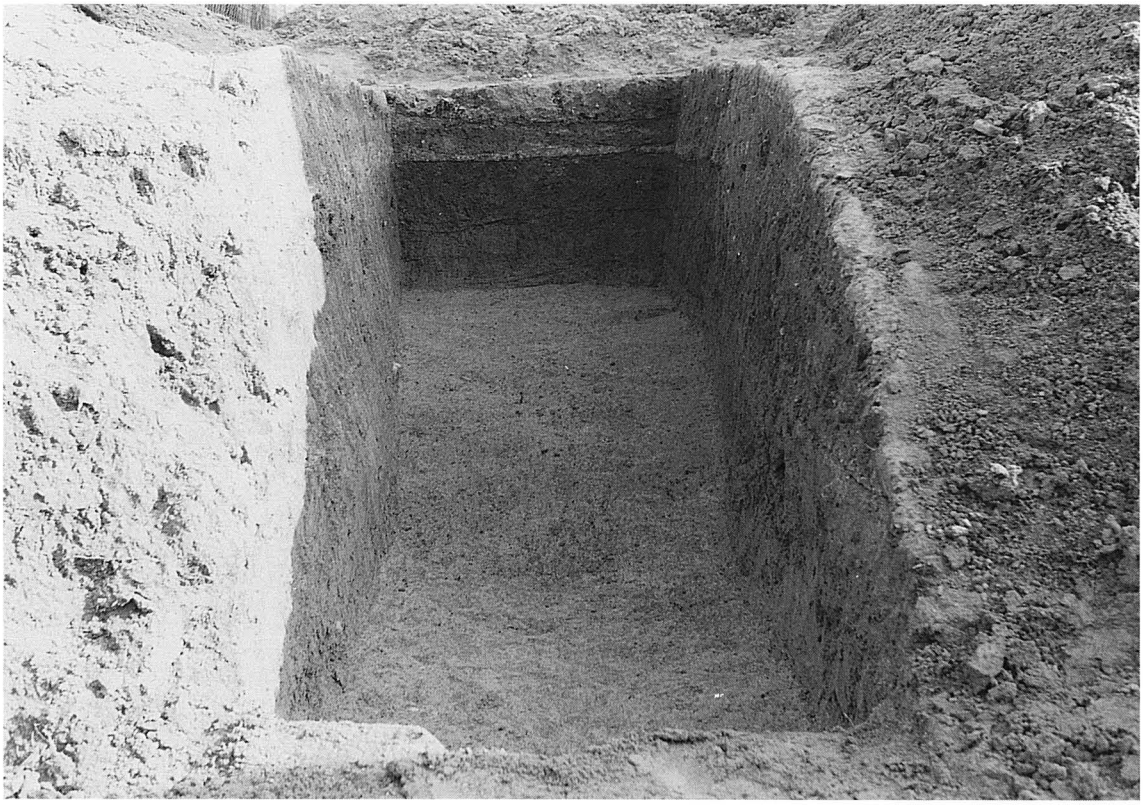
1

10

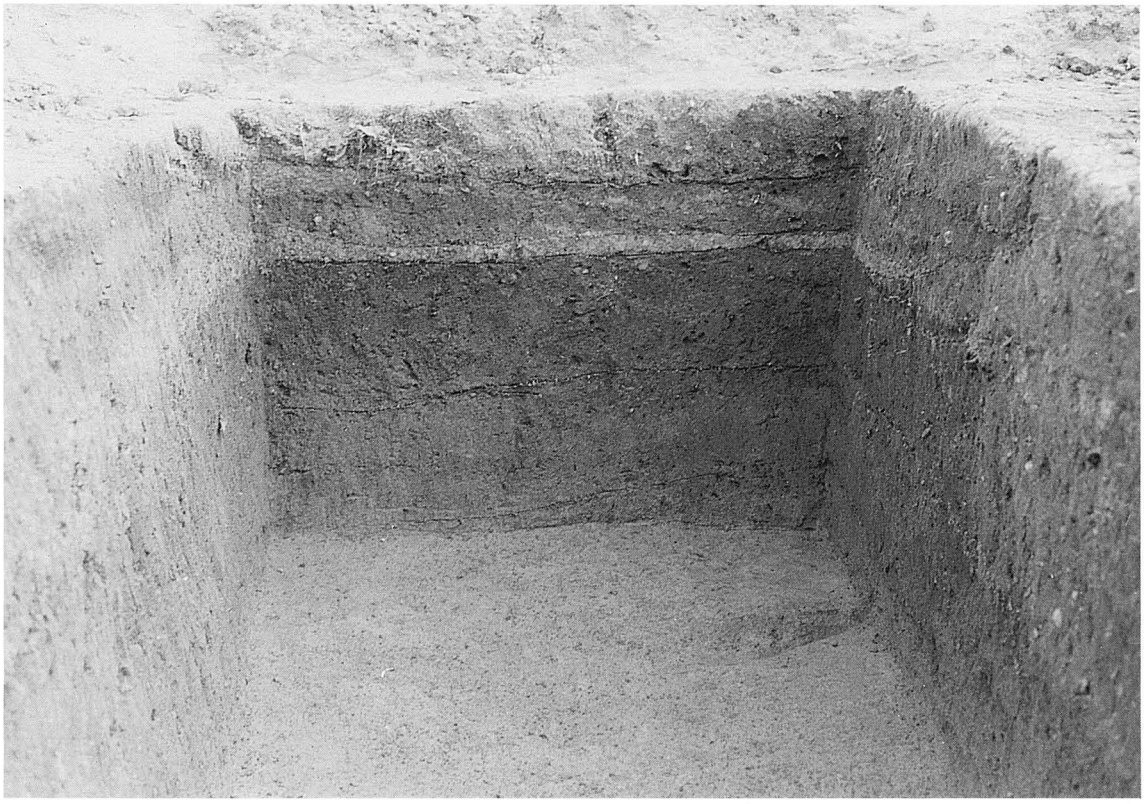
20



鉄滓

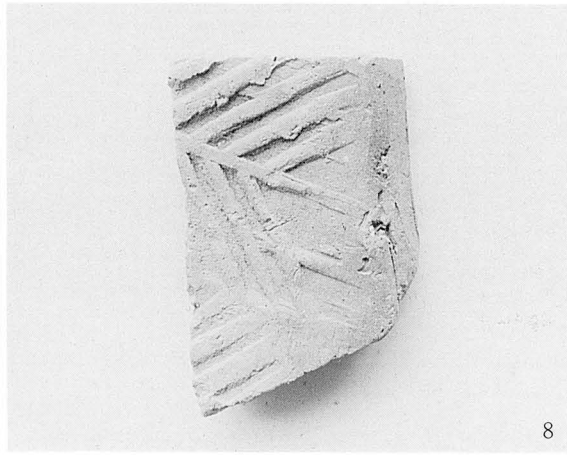


全景（北から）

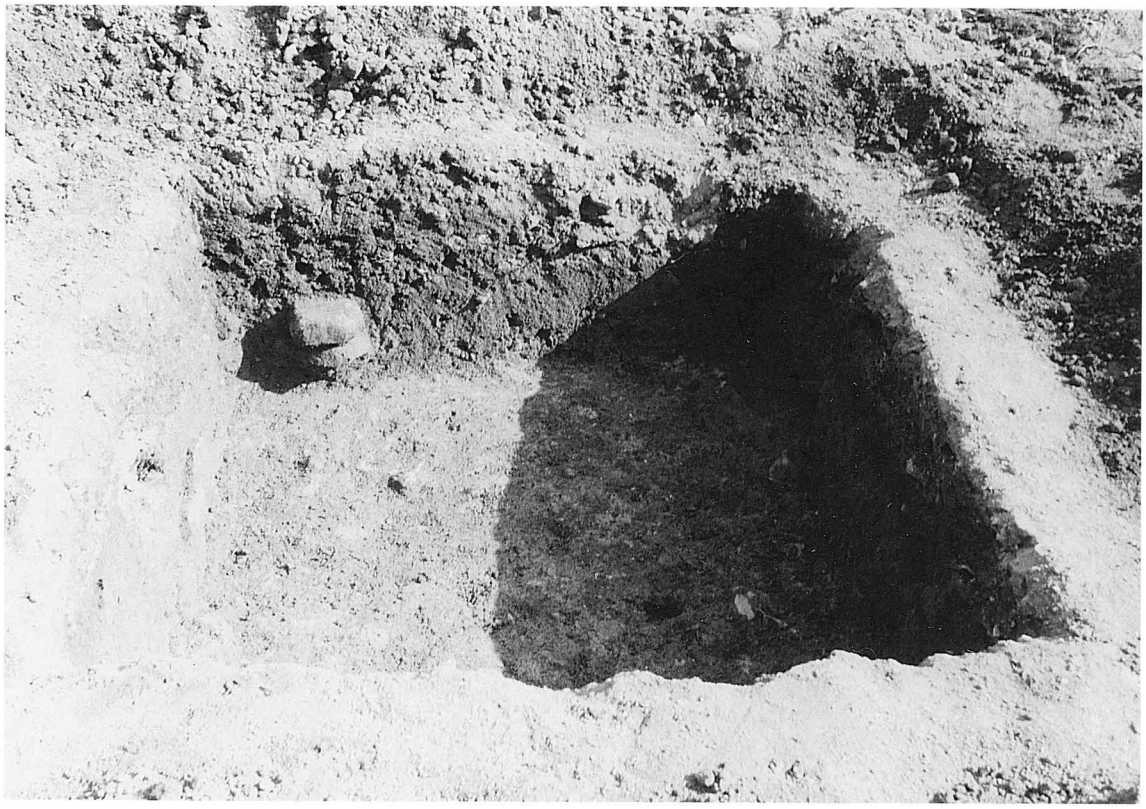


南壁土層

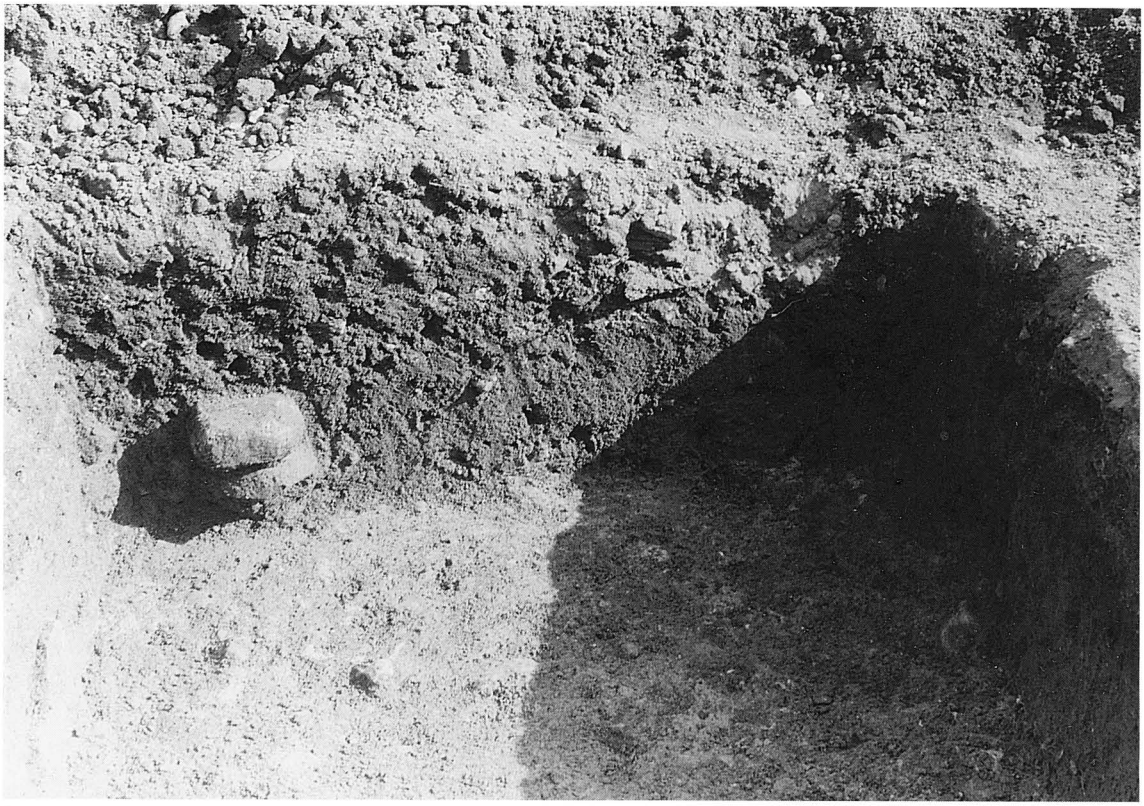
西壁土層



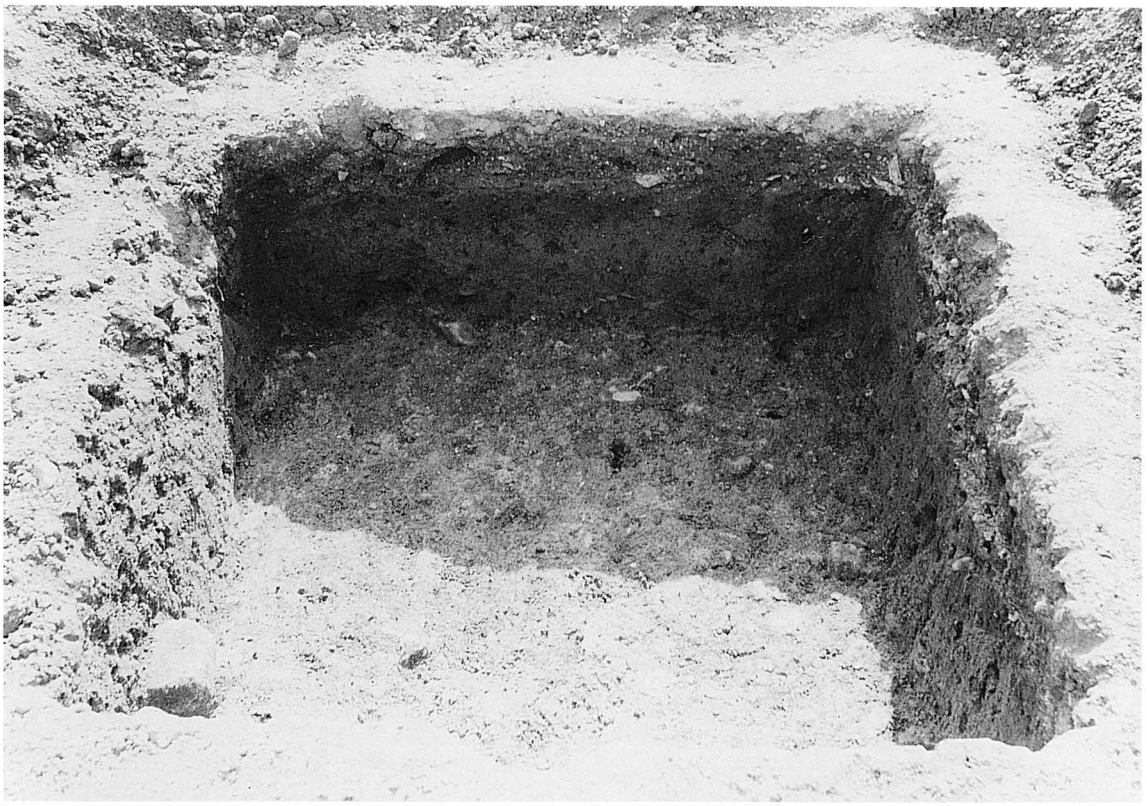
出土遺物



全景（西から）



東壁土層



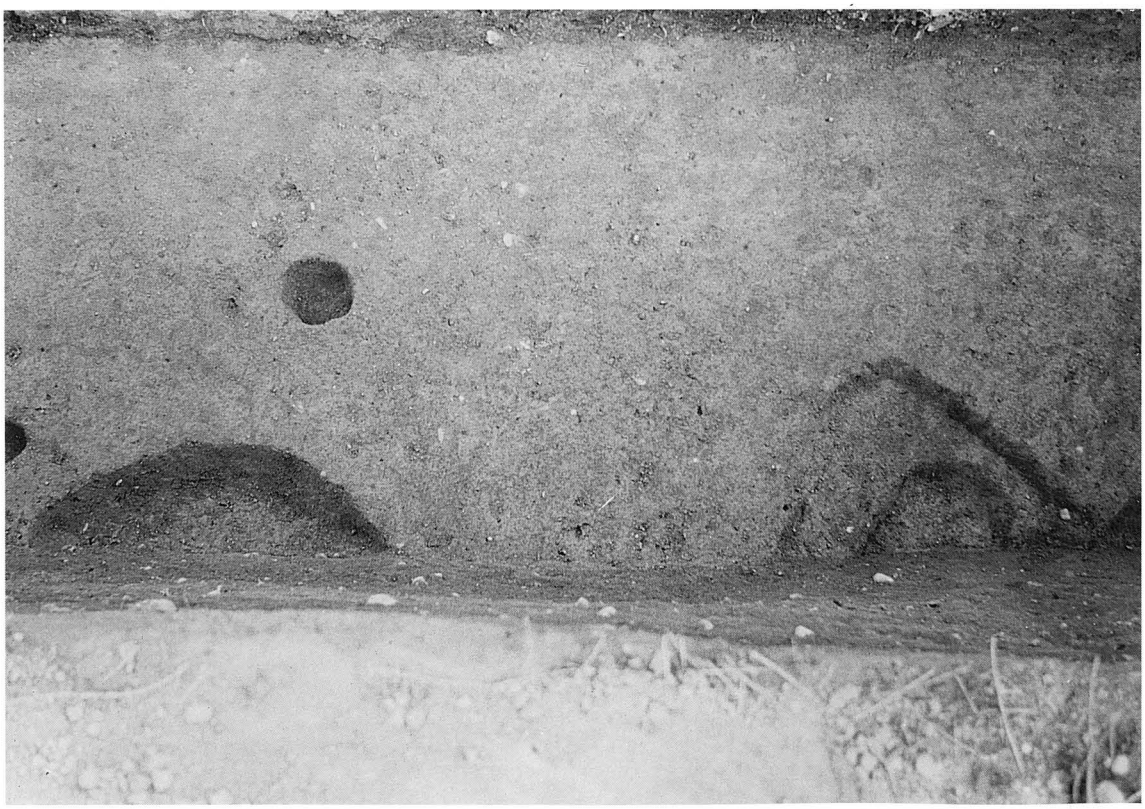
全景（北から）

南壁土層

全景（南から）

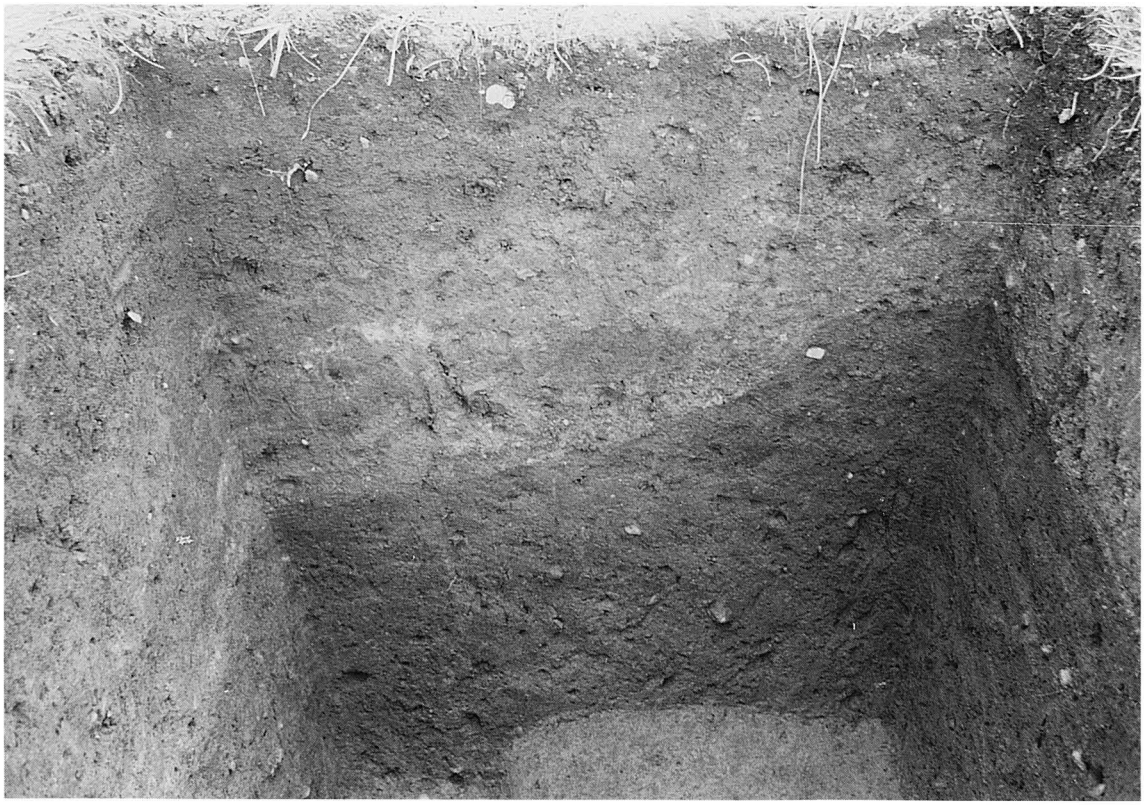
全景（北から）

遺構（北西から）

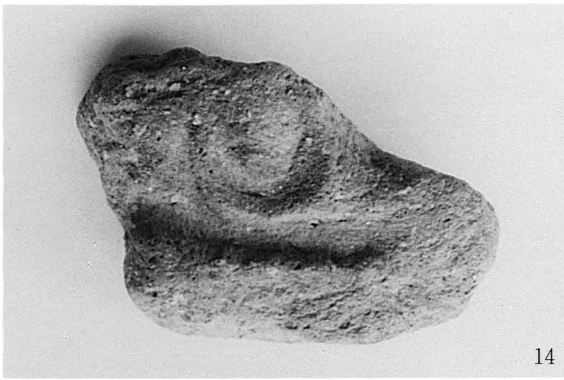


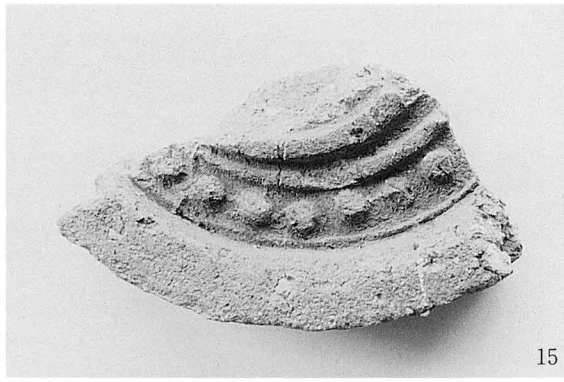
遺構（西から）

西壁土層



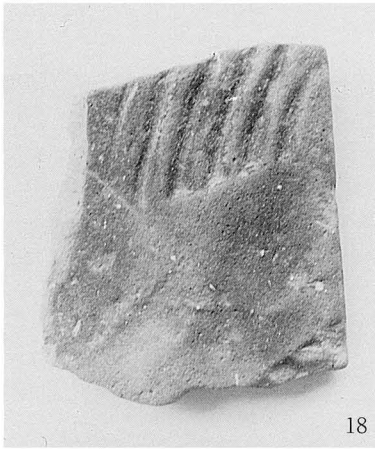
トレンチ南壁土層


14

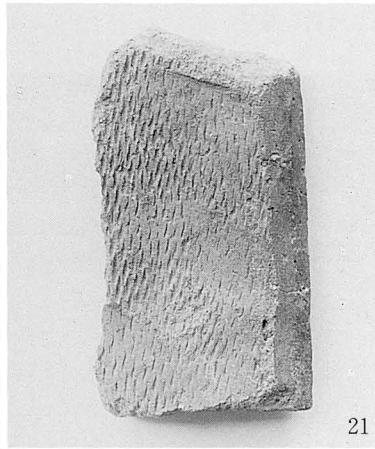

15

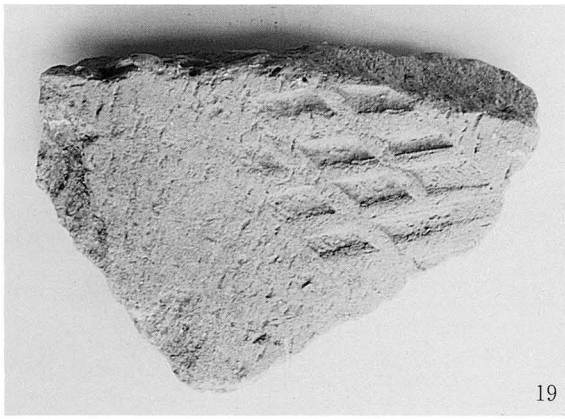
16

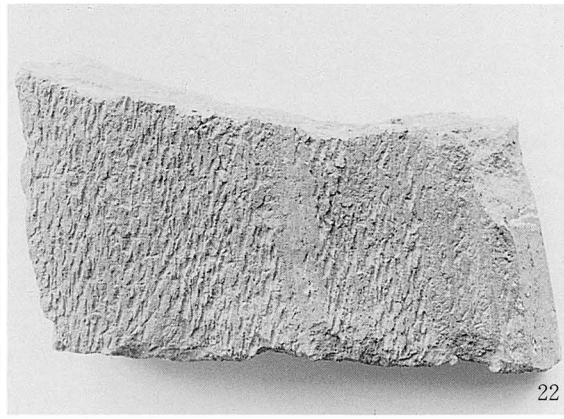
17


18

20


21


19


22

出土遺物

全景（西から）

全景（北から）

柏原市埋蔵文化財発掘調査概報

1993年度

編集・発行　柏原市教育委員会

〒582 大阪府柏原市安堂町１番43号

電話(0729)72-1501　内線5133

発行年月日　平成６年３月３１日

印　　刷　㈱近畿印刷センター